京城日報
十二日夕刊
定價 本紙 一部金三錢五厘 一ヶ月金七拾五錢
廣告料
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通二丁目 合名會社京城日報社

◎航米獨潜艇影を潜む

米國海岸に入港せし獨潜航艇は其後一先づ影を潜め海上復び靜穩となれり米國海軍の調査に據れば潜航艇は矢張り一變なきものゝ如し(紐育電報)

◎疑問の駐獨米大使

獨帝より講和に關する依賴を受け居れりとか又獨逸は再び無遠慮に潜航艇戰を行はんとする意思ありて其結果再び米獨の國際關係を危險ならしむる恐れあるより特に大統領と會見す可く歸來せりなど種々なる浮説を醸されたる駐獨米大使ゼラード氏は十日紐育に着すると共に此れ等の件に就き質問の矢を浴せ掛けられたるが外交上の事は一切語るを得ずとて沈默を守り居れり獨逸に關しては同國の食物は十分なりと語れり尚ほ大使の滯米期間は約二週間の見込みなりと(紐育電報)

◎獨逸の軍費支出議案

アムステルダム來電＝コロン發行のケルニヒ、フォルスザイタング紙は獨逸政府が議會に對し軍費十二億萬馬克支出の協贊を求む可しと報せり(倫敦電報)

◎色彩無き希臘新内閣

雅典來電＝ラムブロス博士は頗る色彩無き内閣を組織せり閣員中内相はグーナリス派のトセロス氏外相は前勃牙利駐在公使ザロカスタス氏なり(紐育電報)

◎排閣の不人氣

三派合同より成りし排閣運動益々熾烈ならんとするも一般の人氣は割合に冷靜なり(東京電報)

◎松方侯歸臥

政變一段落を告げしを以て滯京中の松方侯は十二日鎌倉の別莊に歸臥したり(東京電報)

◎岡氏次官説

農商務次官には岡喜七郎氏任命せらるべしとの説高し(東京電報)

◎中村關東都督

中村關東都督は十二日五龍背温泉に一泊翌十三日歸任す可し(安東縣特電)

●新内閣の政績は擧らん

國民黨總務 犬養毅氏談

寺内内閣は衆議院に基礎を有せず民黨を無視したるものなりとの非難多きが吾黨は既に其の主義方針一定し居り超然内閣が議院政治に非なるは更めて言ふ必要なかる可し故に他派に於て如何なる行動をなすも一切相關せず獨立獨歩する方針なり而して新内閣成立に關しては特色として賞揚すべき點なきも其の顔觸を見るに今後充分統一を維持して政策本位にて言動する事と思はるゝ大隈内閣に於ては外交に於て行詰りの醜態を極め面目一新を要する時機に於て組織せられたるは時機に於て最も適當也外國新聞に於ては武斷内閣なりと戰慄し居る模樣なるがそは皮相的觀察と言はざるを得ず寺内伯は最も事務に精通せる人にして細心周到の性質なれば外交に對しても其の特色を發揮する事と信ず朝鮮に於ても永年總督として施設せる人なれば何分の政策を行ふべし其の閣員の如きは何れも伯の手足となり伯の意の儘に行動すべければ内部より分裂する事は萬々無かるべしと思はる他派に於ては元老の行動と寺内伯の大命拜受に關し排斥的行動に出づる由なるも彼等は眞に誠心誠意元老に對し絶對的に排斥的行動を採るや否やは疑はしく眞摯なる態度を缺くの嫌ひあり過去に於ては元老會議を是認し且つ稱揚しながら自黨に都合惡しとて反對するは如何なるものにや要するに斯る無經綸無抱負の連中にして贊否兩樣の意見を有する者は斯の如き灰色的態度を持するもの也吾黨は斯の如き陰性的の曖昧なる者を全然排斥す(東京)

●新内閣出現は必然の勢

政友會總務 岡崎邦輔氏談

大隈内閣の辭職は寧ろ遲かりし也彼は政黨を基礎としたる内閣なりと稱し常に立憲主義を口にして憲政の妙諦を得たりと誇り居たれども過去二年有餘の彼の治績を見れば悉く秕政ならざるはなし元來政黨政治は責任政治たらざるべからざるに彼は何等の責任を解せず所謂羊頭を掲げて狗肉を賣るの態なりき今回組織せられたる寺内内閣は我々より見れば超然内閣と謂はざるを得ず併し此の如き内閣の出現は畢竟前内閣の惡政に因由したるものにして必然の勢なれば已むを得ずとするも其の責任の一半は同志會之を負はざるべからざる也我黨は固より主義に於て超然内閣に反對なれども前にも云へるが如く前内閣惡政の結果故唯此際は默して時局の推移を監視し徐に彼が政策に向つて冷靜なる判斷を下さんと欲す以上は吾輩の一家言のみ(東京)

◎宮殿下

▲安東縣御發 閑院宮殿下には道中何の御恙も無く御豫定の如く安東縣に御安着あらせられ只今同驛御發車あらせられたる旨十二日午前六時二十五分遠藤秘書官より總督府宛電報ありたり

▲李王御迎送 李王殿下は閔長官、小宮次官等を隨へ十二日午後四時昌德宮御出門德壽宮に李太王殿下を御訪問晩餐を共にされたる後八時三十分南大門驛に向はせられ閑院宮殿下の御着京を迎へらるゝ事となれり

▲奉迎送心得 閑院宮殿下は愈十二日午後八時五十分南大門驛御着同九時十分御發車あらせらるゝに付き總督府及び所屬官署の高等官は御着時間の十五分前までに同驛内指定の位置に參集す可く又一般市民の奉迎送は素より任意なるもプラットフォーム内に進入若くは騷擾を醸すが如き行爲ある可からず、諸般の注意事項は前御通過の際と同樣なりと知る可し

▲學校生徒奉迎送 閑院宮殿下京城御通過に對し京城醫學專門學校、東洋協會植民專門學校、京城分校、京城中學校、京城高等普通學校及び西大門小學校生徒等二百七十一名は教員監督に引率され十二日午後八時三十分南大門驛に參集奉迎送を爲す可く、又善隣商業學校並に元町小學校生徒は龍山驛内に奉迎送の事となれり

◎寺内首相謝電

日本赤十字社山縣朝鮮本部總長並に愛國婦人會山縣朝鮮本部長は在鮮社員會員を代表し寺内首相に對して内閣成立の祝電を發したるに十一日首相より叮嚀なる謝電ありたり

◎仁川府民祝電

仁川府尹久水三郎氏は十日仁川市民を代表し寺内新首相に對し『仁川府民を代表し謹で御親任を祝し御健康を祈る』旨の祝電を發したるに對し十一日『御祝電を謝す』との返電ありたり因に兒玉翰長にも同樣の祝電を發したるが同伯よりも同樣の返電ありしと(仁川)

親任式當日の 寺内新首相

◎教員試驗規則

小學校及び普通學校教員試驗規則は九日附府令を以て十三日の官報に依り發布さる可し同規則は全文十五條より成り十一月一日より實施の筈也

◎咸鏡新線開業 清津蒼坪間卅二哩

鐵道局にて鋭意工事を進めつゝありし咸鏡新線清津蒼坪間三十二哩二分は工事完成せしを以て來る十一月五日より鐵道運輸營業を開始する旨十二日官報を以て告示されたり新開業區間の停車場は清津、輸城、章興、富寧、古茂山、蒼坪の六驛にて哩程は左の如し

清津	輸城間	五哩六分
輸城	章興間	八哩四分
章興	富寧間	三哩九分
富寧	古茂山間	三哩九分
古茂山	蒼坪間	五哩三分

章興古茂山兩停車場にては當分大小荷物の取扱をなさゞる由因に清會線の營業開始は本區間を以て嚆矢とすれど鐵道局にては地方有志の試乘を請ふ外公式の開通祝賀を行はずと

◎兒玉伯の謝辭

新内閣書記官長兒玉秀雄伯は朝鮮總督府總務局長の任を解かるゝに及び左の電報を寄せ本社を通じて在鮮官民に對して告別の謝辭を述べ來れり

小生在鮮中貴社の御懇情を謝し併せて貴社の隆盛を祈る猶小生朝鮮に在る十二年幸に大過なきを得たるは偏に在鮮官民各位の深厚なる御同情に依る貴紙上に於て小生の謝意を表するの機會を得ば光榮の至りなり

◎鐵道局清津出張所

鐵道局にては十六日より清津に鐵道局出張所を置き咸鏡線清津會寧間及び輸城鏡城間の運輸營業及び建設事務を管掌せしむべし尚ほ十五日限り清津建設事務所は之れを廢止すべしと

◎軍司令官巡閲

豫て北鮮各部隊の巡閲中なりし秋山軍司令官一行は十日午前八時忠清丸にて元山に著するや要塞司令部、陸軍倉庫、駐劄軍經理部派出所等の巡閲を終り午後五時列車にて永興に向ひ同夜は永興に一泊の上翌十一日時三十分列車にて再び元山に引返したるが同日滯在十二日午前九時四十五分元山發歸任(元山)

◎秋山將軍歸任

北鮮各地駐箚軍隊巡閲中なりし秋山駐箚軍司令官は安藤高級參謀、野津副官を隨へ十二日午後四時五十六分龍山着列車にて歸任せしが同日途中迄出迎へし竹内高級副官は將軍一行と共に歸龍せり

◎中將南鮮巡視

秋山軍司令官は十二日夕刻歸任同夜八時五十分發閑院宮殿下御搭乘列車に陪乘釜山に御奉送申上げ歸路釜山馬山鎭海各部隊巡視の上十五日夜歸京すべしと

◎吉原總裁引籠

東拓總裁吉原三郎氏は先月下旬歸任以來容態依然思はしからず數回出社せしのみにて近頃舍宅に引籠り居れりと

◎中山院長來田

大邱覆審法院長中山勝之助氏は十一日午後五時來田中川に投宿せしが十二日全北錦山に向け出發の筈(大田)

◎金久保少將來田

歩兵第四十旅團長金久保少將は十一日午後三時四十五分湖南線松汀里より來田千歳館に投宿せり(大田)

◎矢鍋稅關長巡視

元山稅關長矢鍋榮三郎氏は國境方面視察の爲め約三週間の豫定にて河口庶務課長矢野監視同伴十日北行の穩城丸にて出發したるが歸途甲山銅鑛の視察をもなすべしと

◎鑑定價格改正

京城稅關出張所にては來る十六日より左記の通り輸移出品課稅價格を改定實施すべしと

			圓
大豆	上	一石	七、一七
同	並	同	六、五二
小豆	上	同	八、二一
同	並	同	七、五〇
小麥	上	一石	七、〇二
同	並	同	六、四六
荏子胡麻		百斤	七、六五
牛皮花來乾皮	上	同	六〇、〇〇
同	並	同	五三、〇〇
牛皮改良乾皮	上	同	六五、〇〇
同	並	同	五五、〇〇

□時事漫談

寺内首相の大藏大臣兼務に就て伯の如き算數の頭のない一介の武辨で此の複雜せる財政の切盛りが出來よう筈がない大藏大臣兼任など滑稽だなど評してる新聞もあるようだが▲コハ寺内伯の本領を知らぬ人の妄説に過ぎぬ、陸軍々政の今日をなせるは寔きに山縣公あり後に寺内伯ありで、山縣公が据えた帝國陸軍の基礎に於て、寺内伯は多年陸軍大臣として時勢の變に應じ、改良整理を加へて遂に現今の陸軍たらしめたのである、伯の此の多年の經驗練達が朝鮮總督としての今日の良成績を顯はしたのである、世間では動もするとヤレ言論壓迫だの、武斷政治だのと一概に評下する人もあるが總督が就任以來勵精施政の結果は朝鮮旅行者の第一に目に止り禿山は頓に青色を增し凡ての產業は二倍若しくは三倍の增加を示し非常の成蹟を顯はせし一事は去年の始政五年朝鮮物產共進會を觀た心ある人の感歎した所である又財政上に最も勢力あり經驗深かりし故井上馨侯の如き曾て或人に『寺内は軍人に似合はず算數に明るい男だ』と評した事あるを以ても其一斑を推すべしだと或人は語りぬ。

平壤

▲依田判事來壤 鎭南浦支廳判事依田弘氏は十日來壤旅館柳屋に投宿せり▲關野博士講話 考古學の泰斗工學博士關野貞氏は來る十五日午後四時より平壤俱樂部に於て豫て同博士が平南大同江上流に於て新たに發見したる事柄に付き一場の講話ある筈▲庶務係長出張 平壤郵便局庶務係長古田務氏は十月十日管内郵便所視察の爲め平北熙川慈城中江鎭方面へ出張したり▲大同郡水稻品評會 平南大同郡に於ては同郡地主連の主催にて去月二十五日より三十日迄五日間水稻立毛品評會を開催したるが出品點數三七二點出品人三百七十二人にして九月三十日閉會式と同時に褒賞授與式を擧行したり受賞五十名なりき▲向坂技師去來 水原模範農場技師向坂氏は本月七日平北より來壤八日より鎭南浦江西平原の三郡農事狀況を視察し十一日水原に歸任す

清州

▲保安林編入の議 清州上黨城の松林は近來甚しく伐採せられたるがかくては風致上及び造林上の惡影響多かるべき憂ありため忠北道にては之を保安林に編入せんとの議起り目下調査中なる由▲青年會夜學部開設 清州青年會にては今回小學校卒業以上の兒童青年等のため夜學會を開設せん目的にて準備中なるが之が擔任教師としては公立小學校職員に依賴することゝしたるが現大塚小學校長は本計畫のため頃日來進んで斡旋の勞を採りつゝあり愈々開設の曉は地方青年の受る效果至大なるものあるべしと期待せらる▲俱樂部發會式 本夏開設したる三餘俱樂部は會員總數約百六十名に達し日々盛況を極めつゝあるが今回更に發會式を兼ね會員及び家族の慰安のため活動寫眞隊を聘して觀覽せしむることゝなり十一日夜擧行したり

大田

▲講習開會 大田郡にては各方面に對し短期講習、蠶種、工具製法傳習等を開催し一般に普及すべく近々講習會を開催の筈▲傳習生來田 公州產業傳習所生徒二十名は望月教師外一名に引率せられ九日來田白石農園久納農園產業傳習所等を見學し十日午後五時發列車にて鳥致院經由歸公せり▲大隊長來田 鎭海灣重砲兵大隊長西浦衛之助氏は九日來田十日連山に向ひ儒城經由の上十一日歸田し直に零時三十分發列車にて歸隊せり▲前月屠殺數 大田屠獸場に於ける九月中屠殺數は牛百四十五頭四千百九十七圓豚十八頭五十五圓大六七圓にて牛は前月に比し七十頭二千百七十圓を增したり原因は豬盛なりしと虎疫の爲め肉の需用激增せし結果なりと

鳥致院

▲新任分隊長巡視 天安憲兵分隊長に榮轉したる池上勝登氏は管内分遣出張所事務檢閲の爲め七日來鳥同日鳥致院分遣所の檢閲を行ひ藤田所長より詳細なる狀況報告並に説明を受け九日龍岩里出張所十日貴岐及び太平里の兩出張所を檢閲同夜太平里一泊十一日は天安に歸隊▲苹果上向 先月來の降雨及び虎疫の爲め兎角停滯勝なる鳥致院苹果も昨今の天候にて非常な出貨を見近頃は殆ど全部出揃ひ紅玉の上物のみにて氣配稍上向せり▲鍊入不作か 昨年同時或は豐年なりと云ひ數割の增收と噂されたる稻作も愈々昨今の鍊入模樣にては豫想の增收は迚も覺束なきやの模樣にて市場取引至つて強硬なる態度を持せり▲屠獸數遞加 冷氣の加はるに伴れ屠殺數遞加し來り昨今は牛十六頭豚三頭豚一頭にして牛畜は大抵三四歲の牡牛なりと▲市區改正進捗 昨年來の懸案たりし鳥致院吉野町貫通の件は家主及び居住人側との折衝濟み愈十五日限り立退くことに調談せり▲高野山布教所新築寄附好況 鳥致院同布教所新築地は愈々吉野町新設市街の西方に地を卜し新築する事に決し此經費約三千圓を計上し數日前より寄附金の勸誘に着手せるに至つて好況にて風永永太郎氏の如きは金一千圓の寄附申出あり其他の信者も競うて多額の申込あるやうで近々豫定額に達すると云ふ素晴らしき模樣なり

公州

▲巡査派遣 閑院宮殿下御歸朝に付き沿路警衛の爲め十一日公州警察署より巡査四名同補助員數名鐵道沿線へ派遣されたり▲清潔法施行 公州衛生組合に於ては十二日大和町本町十三日山城町錦町十四日旭町常盤町の日割を以て秋季清潔法を施行する事となれり▲窒扶斯豫防注射 公州衛生組合にては第一回十四日午後一時より三時迄第二回二十一日午後一時より三時迄の間に於て組合員の希望者に對し慈惠醫院に於て膓窒扶斯豫防の注射を爲す事となり夫々通知を發したり▲判任見習試驗 八九の兩日に亙り施行されたる本道に於ける判任見習試驗受驗者は内地人十七名鮮人十名なりしと

光州

▲安原聯隊長來光 大邱第八十聯隊長安原大佐は八日夜入光せしが要向は矢張り第二大隊の檢閲の爲めなり▲旅團長以下歡迎會 入光中の金久保旅團長安原聯隊長伊藤大隊長以下各中隊將校一同を九日光州官民聯合の上北村樓に招待し歡迎會を催したるが前田法院長の歡迎の辭に對し金久保少將の答辭あり盛會裡に散會せり▲郡書記講習會終了 豫て開會中なりし本道各府郡島鮮人書記講習會は九日を以て終了せしが正午佐藤第一部長は長官代理として臨席一同に講習證書を授與したり▲中山院長來光 大邱覆審法院長中山勝之助氏は來る十七八日頃來光の上地方法院事務を視察すべし▲高木長官消息 管内巡視中の高木道長官は八日西歸浦上陸の上漢拏山を横切り同夕濟州へ到著したるが推其山其他を視察の上十三日頃歸任すべし

人事消息

▲神林啓太郎氏(咸興慈惠醫院事務取扱) 十二日朝退京
▲藤村直吉氏(福岡鑛務官) 同上
▲宮崎又治郎氏(江原道第一部長) 同上
▲中西淺久男氏(平安農工支配人) 同上
▲笠井眞三氏(小野田セメント社長) 十二日朝入京朝鮮ホテルへ
▲加藤熊二氏(小野田セメント社員) 同上
▲深尾隆太郎氏(大阪商船會社員) 同上
▲谷本伊太郎氏(某汽船會社取締役) 同上
▲大池忠助氏(釜山商業會議所會頭) 同上
▲ツェルヘプン氏(釜山金鑛員) 同上
▲飯島榮一氏(同上) 同上
▲チャーボンスト夫人 ▲ラモーテー夫人(以上米人) 同上
▲古賀貝平氏(全北金堤郡書記) 久しく全北道勤業主任たりしが九日朝逝く
▲松永武吉氏(京畿道長官) 十二日午前開城へ
▲服部親信氏(京畿道財務部長) 同上
▲寺田二師團附醫 十二日午前釜山より入京清光館へ
▲樋口憲兵中尉(黄海道松禾憲兵分隊長) 十一日夜入京浦尾へ
▲三井勝榮氏(奈川憲兵隊附一等軍醫) 十一日夜入京
▲竹内榮喜氏(軍司令部高級副官) 十二日軍司令官の歸任を竜元線に出迎へ同夕歸任

◉秋風を衝いて南へ

遣露大使宮殿下長春御通過

特派員發電＝十二日午前二時五十分著

遣露大使閑院宮載仁親王殿下には重き御使命を果させ給ひ遺路御恙無く當地へ御著遊ばされたり午後三時頃より殿下を迎へ奉らんとて寄集ひたる中には中村關東都督佐藤滿鐵總裁星野師團長松浦旅團長、秋月、森部兩聯隊長其他將校約十名プロスダベロフ長春領事外露國官民代表者五六名吉林督軍代理、陶交涉長、郭吉長道尹外支那官憲約十名山內長春領事王木領事官補橋本警務署長村田地方主任長春諮問委員各區長民會長民會評議員在鄉軍人會員赤十字特志看護婦支會員を始め官民有志者約八十名歩廊に溢るゝ如く

■文武官の劍光帽影に滿ち充ち

たり斯くて殿下の貴賓列車は豫定の通り御安著と同時に殿下には**陸軍大將のカーキ色の御軍服**を召され御機嫌麗はしき御英姿にて**胸間には露國勳章大勳位菊花副章を佩せられ**歩廊に進ませらる隨行員內山侍從武官長安達公使吉田式部官中島陸軍少將中島御附武官黑澤中佐合田三等軍醫正御後に從ひ奉り尚ほ**露國本國よりクガノセフ少將御陪乘奉送し**哈爾賓よりは露國武官ドリアンドフ少將民政長官アブナシャフ少將ツラチレヨールド總領事支那哈爾賓道尹等また當驛まで陪從奉送せり此日中秋の小春日和一天雲無く長閑なる滿洲原頭、驛前は奉迎の爲め早朝より清掃し白砂を布きあり殿下には楢山驛長の御先導にて御馬車に召され**肅々としてヤマトホテルに進ませらる**路傍の兩側には數百の奉迎者堵列し殿下のホテルに御著あるや**劉喨たる海行かばの喇叭の音起り**いと御機嫌麗はしき體を拜せり。街並には此の重き御使命を果されて御歸朝の途にあらせらるゝ宮殿下を奉迎の誠意を表すべく朝未明より

■軒毎に交叉したる國旗は麗か

なる東風に飜々として靡れる光景壯觀を呈す、斯くて殿下には御少憩の後再び多數の文武官奉迎の裡に**滿鐵貴賓車に御搭乘遊ばさる**、折柄の驟雨既に歇みたるも北滿洲は早くも烈しき木枯吹きつゝる中を殿下にはいと御機嫌麗はしく步廊に靜々と步みを移させ給ひ**約二十名許の露支國文武官に一々御丁寧なる御握手を遊ばされ**御發車迄列車の昇降口に佇ませられ奉迎者に御丁寧なる御會釋あり御名殘惜しげに拜せられしが定刻奉送諸員の最敬禮の下に御召列車は秋風を衝いて南行せり

閑院宮殿下の御訪問遊ばされたる露國大本營　露國皇帝陛下幕僚を御對手に地圖を按じ給ふ

▲御機嫌麗しく 安東縣御通過

露國より御歸朝の途にあらせらるゝ閑院宮殿下には長春より扈從せる中村關東都督國澤滿鐵副總裁佐藤警視總長等を從へさせられ十二日午前安東縣へ御著遊ばさる吉田領事始め重なる官民守備隊在鄉軍人學校生徒赤十字社員等各團隊の奉迎を受けさせられ車上より御會釋あり長途の御旅行にも拘らず些の御疲勞の御模樣無く御機嫌麗はしく拜せられたり斯て殿下には停車二十五分間にて山縣政務總監秋山軍司令官古海警務總長等を從へ御出發相成たり（安東縣特電）

◉關釜連絡缺航

既報の如く關釜連絡船新羅丸に虎列拉患者發生し同船は十六日迄門司港外に停船を命ぜられし爲め十三日及び十五日夕釜山著の連絡船は入港せず又十四日及び十六日釜山發の分は缺航となれり（釜山特電）

◉鑿と小刀を携帶せる兇賊 本町で捕はる

長崎市廣場馬生れ京城明治町二丁目千歳館止宿の洋服裁縫職工井土吉太郎(三七)は明治四十二年中佐世保裁判所にて懲役十年の處分を受けたる外に前科二犯あり本年五月出獄するや朝鮮各地を流れ廻り鋭利なる鑿、庖丁、小刀、懷中電燈、合鍵約二十個を懷にして九月一日午前二時頃南山町二丁目平井某方に忍び入り衣類四點(九十六圓)を窃取したるを手初めに以上の道具を使用して本町二丁目永樂町二丁目等の內地人六戶より二百圓相當の金品を窃取し數日前の深更本町四丁目を徘徊中折柄密行中なる本町署の二刑事が怪み逮捕せんとしたるに不敵なる同人は懷より兇器を取出して抵抗せんとしたるも難なく取押へられ取調べの結果前記の犯罪をなしゐたること判明し檢事局へ送られたり

◉清溪川の水は使はれない

十一日午前京城社稷洞藥水湧出の邊りなる土穴中に眞正虎列拉患者の死亡し居るを發見し鍾路警察署にては其の下流區域五洞に對し嚴重なる檢病的戶口調查並に一般消毒を勵行したるが藥水の下流なる小流は既に消毒したるも同川は清溪川（水標橋川）に合し居れる關係上京城の**中央を貫流し居れる同川にコレラ菌の浮流し居れる疑ひあり頗る危險な**る事とて本町及び鍾路の兩署にては清溪川にて洗ひ物をなすことを制止し居れり要するにコレラ菌の傳染は水より來ると最も多きもなれば此際同川に對しては大に警戒を要すべしと

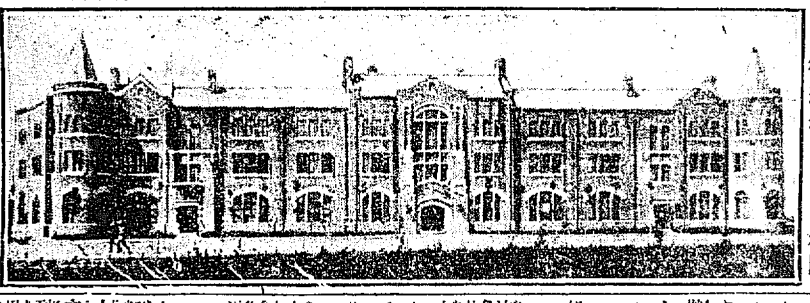
◉拳銃お千代 滿鮮を股に掛けた稀代の大酒呑

東京本所區德右衞門町生れ京城永樂町一丁目飲食店二葉亭雇女星千代(二三)は前科三犯あり長谷川町飲食店東雲亭に雇はれ中去る九月七日夜同家の硝子七枚を窃取して賣却し之を以て酒を呷り九月八日太平通二丁目下宿屋七福旅館に止宿中宿料五圓餘を不拂ひの儘逃走し尚八月二十八日は本町二丁目川崎某を旭町三丁目飲食店末廣に呼び寄せて二圓餘の無錢飲食を爲し其他の飲食店を荒し廻りて遂に本町警察署の刑事に引致されたるものなるが同人は女には稀なる大酒呑みにて先づ三升を以て適量となすなど豪語し始末に終へぬ强か者なりとの噂あり以前

▲吉原にて娼妓 稼業中田中といふ拘兒の親分に落籍されて同棲したるも酒癖の惡しき爲めに永くつゞかず離縁に際し田中より右肩に一發の拳銃を見舞はれ其の創痕あるを以て遂にピストルお千代といふ綽名

◉各地の初霜

仁川觀測所報に依れば京畿道利川及び黃州に本月四日初霜を見たり昨年に比較して十日早く又慶尙南道居昌、咸陽、山淸、慶尙北道尙州、永川、安東、榮州、全羅南道光州、長城、全羅北道任實、鎭安、全州、南原、忠淸南道城、公州、忠淸北道堤川、槐山、江原道鐵原、春川、咸鏡南道端川、咸鏡北道富寧の各地は何れも四日初霜ありたるが何れも昨年に比し八日乃至二十三日早かりしと



閑院宮殿下の御通過遊ばされたる長春驛

◉元山に似疑二名

元山に疑似虎列拉二名發生し一名は死亡一名は府立傳染病院に收容せり（元山特電）

◉大邱益々猖獗

大邱には十日より十一日までの間に又も吐瀉患者鮮人五名保菌者鮮人三名を發生し吐瀉患者中三名は既に疑似コレラと決定し中一名は死亡せり（大邱）

◉雄叫ぶ嵐に孕まれて（二）

商賣いろ〳〵＝草紙 船乘になるまで

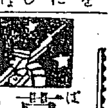
海上の生活も朝鮮の近海航路では大した苦痛はない然し海を棲家とする船員の身になつて見ると近海航路でも夫れ相當に苦痛や、無聊や味氣無い思ひに惱まされるのが常で殊に三四百噸型の船に乘た者は悲慘である

▲船中の娛樂 と言つても將棋と智慧の木、トランプ位ゐが關の山何んと云つても治外法權の船中であるから陸上では見られぬ黑面もあるが船員の生活といふものは社會とは全く別世界であるから致方が無い、それから彼等が無上の慰勞とするのは

▲陸に上つて 歡樂を貪る事であらう、船員の話に依れば船が仁川の港口に入つて月尾島の影に鼓島あたりの家並が見わ出すと、小鳥が大空を戀ひ慕ふ樣に早く陸の土を踏んで見たくて堪らず繫纜い身を悶へて海を一足飛に飛びたいと思ふ相である實際海上生活の身には陸ほど戀しいものはない恐らく港へ著いて知己朋友からの手紙を受取る事が

▲娛しみ中の 樂しみであらう朝鮮の近海航路では左程でもないがそれでも港に著いて東と重る多くの手紙を披くと中には父の病死や兄弟の危篤の通知があつてあーあの時刻にはM港で遊廓に遊んで居た父の死んだのも知らずに放蕩をして申譯りなかつたなど〻思はず淚を流した親戚に結婚があつたと喜び友が死んだと知つて

▲無情を感じ たりして人生の喜怒哀樂を一度に味ふのである恐らく船乘として港に上つて手紙を受取る位ゐ樂みな事はあるまい以上は船乘業者中の下級船員の生活を描いた者である（をわり）



幕營の夜（二）

堅麵麭と大福餅

◇洩れない十數の幕舍 歩けばかさ〳〵とおとげた音をたてる薄暗い豆畑の中には微かな灯さへが、ボンヤリ白く浮き出してゐました。私は豆殼を踏み碎きながら、一々此の幕舍を覗いて歩いて見たのです。幕舍の中には既に炭火が燃々と燃ゑ熾つて、新らしい藁が、暖かさうに六七寸の厚さに敷いてあるところもありましたが、天幕の組立てさへ出來ずに、支柱を打つてるのや、組立てた

◇天幕の廻りに雨水の 流れ込まぬやうにと、畑の土を盛り掛けてるのもありました。幕舍の中には僅かに十四五人の兵が、疲れた足を投げ出して、寢轉んで睡むさうな眼をしばたいてゐる者もありました。此の夜は炊爨が無いので幾分樂ではあつたがその代り、夕食としては重燒麵麭が數枚と、間食に大福餅が十個宛渡るとの事で、道路に沿うた畑の一部に

◇牛車が幾臺も挽き込 まれて、藁だの、罐詰だの、餅だの麵麭だのが山の樣に降ろされて二三人の下士が、五六人の兵を指揮してこれを各中隊に分配して居りました烈しい動作を續けながら、一日に六里も七里も歩いて來て、十時過ぎに食べる夕食がやつと、麵氣といふものゝ微塵も無い

◇パンに餅の幾きれで は、虐待につぐに虐待を堪ねて事た胃腑氏を踏みつけにし、その極度の忿懣を買ふのは無理からぬ事ではありますが、然かし又今一歩で閣下の階段に達しようとしてゐる聯隊長殿を始めとして馬丁に至るまで、皆此の麵麭と大福餅に凌がねばならぬのですから、いかに腹が減つても辛棒は出來やうといふものです。それでも麵麭と

◇餅の夕食に腹が一杯 になると幕舍の中には愉快な談笑の聲が、炭火の强い溫氣に融け合つて爪先の靴擦れを手療治するもの、日記を書くものなど各々勝手に自分自分の用を濟ますと靴を脫いで外套を被つたまゝ、コロ〳〵と枕を並べて寢てしまう。其處には下士の卒のといふ種別は無い

◇丸太を倒したやうに 寢轉んでゐる人の顏が、一緒になつて、時々寢返りを打つたびに藁が音を立てるばかりです。恁うしてゐる內に故鄕の空や、將來の希望や、昔の思ひ出、などさま〴〵に通ふ露營の夢を破るものは三時四時頃から炭火の消ゑるにつれて

◇催ほしてくる寒さで あります。火を焚かうにも隊倂に制限して渡された炭は焚きつくして無し、起きても寒し、寢れば尙ほ寒し已むを得ぬまゝに互ひに抱き合つてゐる內に五時頃には隊の出發となるのです。偶々飛込んで行つた者が兵と一緒に寢る事はいかにも辛い事ですが馴てしまへば大した苦痛ではない

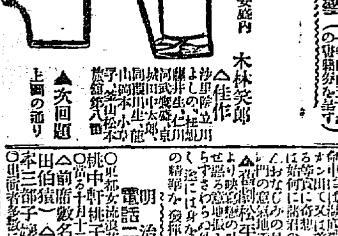
◇敵を抑へて天幕も張 れない、藁も敷けない野外露營の事を思へば、まだ〳〵樂なものですと或る中隊長が言つてゐましたが、茲に至つて習慣といふものゝ力强さが今更の樣に感ぜられたのでありました。（西鮮機動演習の露營地にて三好生）

開演以來多大の御同情により連日滿員の盛況を賜はり候處觀客各位の御熱心なる御勸めにより年に一度の京城神社祭禮興業決行に付諸道具一切準備の爲乍遺憾今十二『十三』十四日の三日間休場し更に來る十五、十六、十七、十八日の四日間新たに其他大道具興業致事に相成候間陸續御來覽の榮を賜らん事を伏て奉願候
京城 市川市十郎一座 壽座

讀者文藝（一等には五十錢の切手又は相當の景品を呈す）

△飲め給

○隱居（一等） 京城南大門通安藤內 木林笑郎



△佳作 沙里院立川 よしの、桂川 京城中河、仁川 城田生、 同井太郎 山國中生、龍山 予本 旅館第八番

▲次回題 上圖の通り

◉清州名物の銅橋 二尺餘の圓筒形鐵管を積み上げたるものにて現在存せるは二十個のみ……の費を投じて修築することゝなり數日來工事に着手したる從來鐵管の內……

◉龍山交通遮斷解除 虎疫流行の爲交通遮斷中なりし龍山元町……

◉課題及募集規程 ▲用紙は端書又は四同の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事▲贈賞は一……

天氣 曇の少雨後晴（十月十三日午後六時）

〈演藝案內〉

黃金館 電話一八五二（階上）二六三七（階下） 大鉄色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店

大正館 櫻井町 電話八七三 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店

御成座 御成町 電話一一九一

大正館 二日目 八時滿員 好評沸くが如し 實錄忠臣藏 全通し 餘興 少女浪花節 本日讀物 大石山科通ひ 先客五百名限記念品贈呈

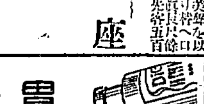
有樂館 本町一丁目 電話二六六

浪花館 明治町 電話二六〇

明治公債株式會社 朝鮮支部 社員募集 京城黃金町 朝鮮外事部 釜山幸町 釜山出張所 同 太田榮町 太田出張所 群山開町 群山出張所 清津敷島町 清津出張所 平壤本町 平壤出張所 元山仲町 元山出張所 大邱三笠町 大邱出張所 木浦大成洞 木浦派出所 咸興大和町 咸興派出所

東洋一 新形流行の魁 內田式ストロング鞄は堅牢優美、價格一層耐久保證す 御旅行用 靴と鞄 ◎定價表郵券二錢 東京市芝區櫻田伏見町角 內田靴鞄問屋 電話一五五一、新橋一八七一

胃腸最新藥 ヂゲスチン 常用すれば血液を增し精力を盛んにす ◎說明書送呈 東京本町 藥種問屋 合資會社 圓城商店



新築開業 寫眞半額 向一週間撮影仕候 京城旭町二丁目 河原寫眞館 電話二九八一番

當地在京中は公私共多大の御高配に預り深謝候今回家事上の都合ニ依リ暫ク歸國致スヘキ事ト相成リ候間一々拜趨御挨拶可申上筈ニ候ヘ共各位ニ御無沙汰ニ南大門驛發列車ニテ歸國致候ニ付乍失禮以紙上御禮申上候 古我貞周

物品購買公告 一、藥一萬六千貫 此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上 入札者ハ京城府內ニ於テ國稅地方費納ムル者ニシテ二年以上ノ同業ニ從事スル者 大正五年六月限リ京城府條例第二十一條ニ依リ入札ノ希望ノ向ハ本府計算係ニ就キ仕樣書熟覽ノ上十月十四日午前十一時限リ同府會計ニ入札スヘシ 契約ハ即時開札ス 右 大正五年十月九日 京城府 朝鮮總督府尹 金谷充 ▲前號朝刊一藥六十貫トアルハ藥六千貫ノ誤植

……を徴するに由なきも既に一千餘年を經過せるものなるべく直徑尺餘長さ……課より技術員を派し修理に努……る調査をなしつゝありしが今回國費……として保存の必要を認め千數百圓……コンクリートを施すことゝなりたる由（濟州）

牛に乗つて魚獲り
仁川近海の漁村—奇しき風習

天高く鶴九天に舞ひ馬肥ねて浩蕩たる秋風に嘶く今日此頃秋草を摘んで一日の清遊を恣にする者狩獵に鋭氣を養ふ者等野に山に溢るゝ程であるが潮風冷やかな海濱やさゞれ蟹道……

◆干潟を訪づれて

清澄な空と漂渺たる波の偉大な眺めに秋の清趣を味ふ人は餘り多くはあるまい、由來黒寂な山は秋に溶蕩たる海は春に於て無限の情趣を湛ふる者であるから澄み渡る空に、鮮やかな紅葉の映發する昨今山の賑ひに引替へて海の寂寥さは一種で、殆んど釣する人さへ稀れに見る程である此の忘れられた秋の海として偉大な眺めと

◆奇なる風習と人の眼を驚かせる漁村が仁川より程遠からぬ處にある、岩崎家の經營として有名な東山農園から野を過ぎ山を越へて半里計り東の方に向つて行くと、其昔京城の貴族が春の海秋の月を賞すべく船遊びをしたと傳へられた西面と言ふ部落がある此面は三方に山々を負ひ、前面は洗ひ淨めた眞砂の濱が干潮の際

◆里餘も展開して

月尾八尾の島々から遠く仁川港内外に出沒する島嶼を一眸の中に眺め得て、其の風光の偉大にして絶佳なるは仁川近海では稀に見る處であるが未だに探勝者に依つて廣く世間に紹介されるでも無く、牛に乗つて魚を獲ると言ふ奇々妙々の漁業も、徒らに埋もれて仁川居住者さへ知る者絶へて無い、人も知る如く仁川の潮の滿ち干は三十餘尺に達して

◆殆んど世界に其の比類を見ない程であるから、干潮の場合は干潟は遙かの沖に浮び出で滿潮の際は砂濱の如き白砂の濱は瞬く間に漫々たる海中に沒して、其の變化と興趣の深きは寧ろ驚異に値するが漁民は此潮の干滿を利用して所謂『牛に乗つて魚を獲る』と言ふ珍妙にして奇拔な漁業を營んで居るのである、秋晴れた一日草鞋一歩にして天地高しと言ふ氣分を味ひ乍ら此の濱を訪づれると遙か月尾島から八尾島の方角に該つて高さ五尺長さ百間餘もある

◆網が無數の杭に依つて二十三十と立てられて居るが見受げられる、此の網が即ち牛に乗つて魚獲りの手品の種で轉て潮が滿ちるに隨つて十町二十町三十町の沖合に沒して、其邊り漁帆片帆が悠やかに徂徠し鷗が群れ飛ぶ海原の底となるが數時間の後には潮は干て又再び砂濱は浮び網は現はれる此時漁民は各自に牛に乗つて沖に出で網の底に鮮鱗潑溂として躍るボラ、コノシロ、車蝦蟹等を獲つて

◆網を鞍上に眺め陸地へ

漁をさしてトボ〳〵と歸つて來るのであるが漁獲の多い時は十貫以上にも達し京城で珍重さるゝ車蝦の如きも一網に二三百以上も懸る事がある、此れを見るには婦女子と雖もさしたる困難もなく網を高くからげる必要も無く網の附近に行き得るから清澄な秋の日を浴びて西面の濱に一日の清遊を恣にするには最も適して居るであらう只斷つて置きたいのは此の牛に乗つての魚獲りも春四五月が最も盛んで秋はやゝ衰へる事で春秋共に陰の十五日の大潮時が最も適して居る事を記憶して居らねばならぬ

△會のいろ〳〵▽

□救世軍音樂會 十三日（金曜日）夜市内興化門前救世軍會館に於て有志者主催の音樂會開催

□救世軍の感謝祭 十月十二日（木曜）午後八時より永樂町二丁目救世軍京城小隊にて聯隊長官ボーン少佐司會、救援感謝祭あり

□秋季箏山演奏會 宮城大檢校門下の宮崎介氏を中心とせる宮崎社中にては來る十四日午後二時より龍山京人倶樂部に於て演奏會を催すべく當日は一般の來聽を歡迎する由

□鐵道講演會 龍山鐵道倶樂部に於ては十二日下滞在中の曹洞宗駒澤大學教授講師忽滑谷快天師を招聘し午後四時半より講演會を開く由

十月十二日より上場 伊國アンブロジオ會社大傑作 大冒險大活劇 猿ヶ島 全十卷
太平洋中に捨られたる孤兒が猿猴のために養育せられ千變萬化の彼れが運命や如何に、乞ふ畫面の展開に見られよ
目玉松之助得意の新撮影 舊劇 松平外記 全四卷 武門の意氣地千代田城内の大慘事
本町一丁目 有樂館

神社とお寺と教會

○明教院（本町三） 十三日午後一時より婦人例會あり
○曹谿寺（大和町） 十三日午後七時半より新谷師の講話あり
○天理教（南山町） 十二日午後一時より秋季大祭を行ひたり
◎屍體を川に棄つ 江原道鐵原郡馬場面崔岩里李愛物（三）は大正四年舊八月五日居宅にて男兒を死産し其の屍體を臨津江に投入遺棄し懲役三月の處分となる

今年の冬帽子
流行のいろ〳〵

今年の冬帽子は去年の冬帽子に大した變りはない、と云つて了へばそれだけの話だが何いふ風に變つてゐないかを云つて見る

◆禮帽 は變らない中にも殊に變らない形だが、山のまはりの反がなだらかに行つてゐてケバ〳〵しさがとれてゐる中山（禮帽の中に入れるのは議論のある事としても日本の習慣に從つてこゝに加へる）は山が稍角ばみ見ねるかと思はれる位の山で鍔は目立たぬほどの平たさが增した今年特に面白いのはスコッチの中山はズット輕目になつた事である

◆平帽 で尤も變た事は中折帽と稱へられたのとソフト帽とが全く混線して一種の新しいソフト帽が出來た事だそれが悉く縁なしで無理に縁をつける事を望む人には折まげを冠るより外ない位になつた形では山がホンの心持低い加減で鍔は去年と同じだ色は茶と鼠及びオリーブがかつた茶などが多い人の好みは矢張り茶に走つてゐる樣だ

◆略帽 チョコといふ略帽は特に今年の帽子界に新しい流行として割込んで來たこれはこれまでの堅い中折がソフトの仲間入りをしたについで當然ソフトよりも略された帽子をといふ望みを持たれる爲めであらう生地は矢張りホームスパンなどで縞降りや小辨慶の柄が多い色氣は茶とオリーブとに片寄てゐる只輕いのを喜ぶ風はある鳥打は益々天井が廣くなつたそして色氣の上から云つては殆どどんな色でもといふ位中に三ツはぎの天井一枚天井などは尤も通なものであらうさうかと思ふと極々の舊式の形のものさへ復活してゐる切れ地はホームスパンなど縞目の判らぬほどな格子縞や小辨慶が重なる柄である

◆小供 小供の帽子はフエルトといふ形が全盛だ、そして形は同じで只卷リボンの形ちによつて男の兒と女の兒の差別がつくばかりだ、その外に男の兒ではメリケンといふ形もあるヘルメットから出た帽子でこれには廂め外しの出來る鉢卷などが出來てゐる赤ン坊の帽子は悉く山高形になつて了つた

◆値段 は去年から少々高い加減だがお客の好みは毎年好い帽子〳〵と望むやうになつてゆく今は日本でも殆ど全部不自由なしに帽子を造る事が出來るやうになつたさうだが舶來品と較べれば羅紗の手障りがちがふ、併し値段は舶來品が三割方も高い

商況

●連絡船上陸客 十一日夜釜山入港壹岐丸 二等客 鈴木熊太郎、志岐信太郎、岩本以明……

東京株式特電 十二日 前場寄付 [illegible]
公債直取引 十二日 [illegible]
深川在米特電 十二日現在高 [illegible] 九七、九〇
債券現物特電 [illegible] 七六、〇〇
東京期米特電 十二月限 [illegible]
大阪株式特電 [illegible]
大阪三品特電 [illegible]
大阪期米特電 十二日後場 [illegible]
下關期米特電 十二日前場 [illegible]

雜報

●種油は商狀閑散 內地油類の近況によれば種油は原料相場依然强硬を繼續し製油家亦强氣を持續し上總對に安値には賣應ぜざる方針を執れるより下押しは殆ど微々たるも而も法外の高値は內地需要の減退を喚起し且つ輸出商談も引續き振はず閑散の商狀を辿り居れば結局目下の成行は小往來に止まり保合ひの姿を持續するものゝ如し併し原料高にて或は乗騰を惹起することなきも測り難し胡麻油は續いて捗々しからざる製油家の不引合を高唱にするあり勞目先き需要の增加に從つて小堅き成行を示すならんか荏油並に桐油は續いて平靜の商狀也

●皮革類活況 殆ど二倍に達す 當地の皮革狀況は近來頗る活況を呈し前月以來今日迄の價格は殆ど二倍の好況なるが之が原因は內地製革所の靴注文に全力を注ぎつゝある折柄一般在品拂底を告げ價格又割高なる爲め從來內地より輸送を仰ぎし滿洲方面に於ては兎角供給不充分となり遂に其補充を當地に仰ぐ事となり滿洲及哈爾賓先販來

●方面に斷らた……

●千瓢人氣一變 千瓢出廻り以來多少の波瀾ありて過般來漸く落付狀樣となりしが最近人氣一變し相場は俄然約一圓五十錢方の昂騰 ……

●淺草海苔昂騰 ……味附……

●一割以上相場引上げた ……

●昆布小弛む 利尻一等十二圓五十錢二等十圓處 ……

●生果依然不勢 先行きは好望に目されつゝあり ……

下關相場

▲朝鮮白米は變らず依然賣れ行き捗々しからずして市況活氣を呈するに至らずと雖も何分産地の人氣安からずして各米主の賣り急がざるに依り格別人氣狂はず之れか當川口への出來値は左の通りにて其後の輸入は六十八叺のみ
▲大豆は依然不味 本日は……
▲小豆は矢張手堅し ……

△朝鮮一等白米（常用）十五圓五十錢
△同 十五圓…
△太當新大豆 十…
△同 十…
△倭舘新大豆 九圓…
△同 十…
△深川新大豆 十…

京城正米

古米は依然氣丈に持合風情を示し新米は今朝跳返したりと雖も新米出廻り增加し而かも農家は新米の手放しを爲め此處概して手放しを……

仁川期米

▲十二日前場 大阪天候小雨 前寄十五圓丁度 昨止より十五錢高の入電 ……
大阪二節〇九錢高移り ……
六節十五圓丁度と安移り ……

仁川現物市場

釜山穀物市場 十一日

南大門の廻穀

仁川米豆取引所仲買人 ㊐仲買店 支配人 土居勝 電話二八三番

利仲買店

市場零聞

▲頭重く伸惱む ……
▲存外伸惱み ……

仁川米豆取引所 十二日の十一月限

北濱だより

▲鐘紡增資否認 ……

▲前場の手振
▲㋑の大商內
▲能く賣る
▲能く買ふ
▲㋣の商內
▲〆の商內
▲㋷の商內
▲賣人氣旺盛
▲依然賣人氣旺盛
▲丁以上の大鞘見て遂に三百十
▲結局保ち合
▲最新安値を現出
▲新穀の出廻り相待つ趣味加はらん

▲氣象豫報（十四日） 西方海上風强がる可し ▲示度 七百五十六粍 ▲記事 北東風强し ▲警戒區域 全鮮南道沿岸

最上 鶴 醬油 京城府龍山元町 關西商會讓造所 電話三十九番 振替口座京城二十三九番

壯健なる身體を得るには今直ぐ御使用あれ 品質と價格で大評判 ミヨシ 製造元 三田土ゴム製造合名會社 發賣元 大阪唐物町 飯田商店

米 株 文勝 實業通信社 東京小石川表町百 五十錢封入申込あれ

松田大寶堂 大阪天神橋筋西二丁目 振替大阪二九九四九番

從來萬年筆の大缺點はインキの注入に手數を要し……自動廻轉萬年筆 正十四金ペン付 五拾錢 壹圓參拾錢

職業 無料宿泊 東商會 大阪市本町 信濃橋東詰

月刊商報發行送呈 釜山本町三 近藤商店 電振三五八 七六八

◎青竹 輸入 釜山港 島末材木店

日鮮雜貨 鍋釜金物 卸問屋

石炭 唐石 銀牌受領 朝鮮勸農商會 製造販賣

食料品雜貨 乾物 砂糖 麥粉 煙草 罐詰

板硝子輸出入商 釜山本町 村上元治郎

CONFECTIONARY WINE PROVITIONS DEALER 洋酒 食料品卸商 トミヤ商店

洋酒罐詰 卸問屋 釜山辨天町 ビワコ屋 （月刊物價表發行）

內外雜貨卸問屋 近江屋支店 釜山本町二丁目

ダイヤ印燒酎 カーバイド アルコール 福榮商會 釜山

釜山 岩名商店

宮本武藏

第百八十五回　桃川如燕口演　浪上義三郎速記

常陸國の鹿島神社の祭禮は毎年六月十五日でございまして、是を鹿島の棒祭りと云つて名代の祭禮でございます、江戸から態々商人が出向く位で、大した賑ひで、兩三年打續いて何も出來なかつたが當年は本祭りとて云ふので悉く立派に出來ました、造り庭飾り物、又山車は車を附けず角々に飾つてある、是をダンジリと云つて田舎の山車は決して曳出しません、在方の若い者は揃いの衣類で神輿を昇ぐなぞといふ騒ぎ、境内には廿五座の神樂を奏し、餅を撒くといふ騒ぎ、商人は筵を敷て品物を併べ商ひをいたし、種々な物が出ます、又奥山の方には引張り物と稱へて觀物小屋がかゝる、或は蛇遣ひ、猿芝居豆藏が出る、其の脇に覗き眼鏡などが出て三莊太夫の繪を見せる、向ふの方に出て居たが拔刀で、左右に異様の鐵物を打つた荷物を置き、其の中央に床几を置きそれへ片足を掛け立つて居るのが拔刀の親方、其の前の處に十四五歳になる小僧が襷陣巻で、裾を高く端折客の方へ尻を向けて親方に對つて木劔を突て居るのは受太刀と稱へ、一々親方の云ふことを受け答をして居ります、親方は『親』何とお立合、是へ出張て御披露をいたして居りますのは歯磨を賣り拔刀をするのが稼業ではない、是は些の座興で手前の本業は歯拔、小兒の内は八重歯と云つて惡い歯が生るがそれは、早く拔かないと三ツ口になる、口は門外歯は一生の寶、切ても切れない燒ても燒けないといふのが歯で、大事にしなければならん、湯風が浸みてならん又グラ〳〵して叶んといふには家傳の粉藥、是を塗布れは忽ち癒る『小僧』『アイ〳〵左樣でござい』『親』御用の御方は荷物の傍へお廻りなさい拔いて宜い歯なら直ぐ拔いて上げやう』小僧』アイ〳〵左樣でござい』『親』何とお立合、此の位が恰當帶し頃だな、柄鞘かけて二尺二三寸ある、是が戸田の一流觀附け、是は一刀流の門帯し今重ね切といふのを御覧に入れやう』『小』アイ〳〵左樣でござい『親』然し御披露の爲であるから此の歯磨に家傳のクシャミ藥に銀磨の粉、此の二品を附けて代は僅に八文』と小僧に渡すと小僧は是を受取つて『小』ヘエ親方、彼方でも御用と御仰る』と周圍に群つて居る見物に賣つて歩く見物は拔刀を拔くかと思つて見て居たが歯磨ばかり賣つて却々急には拔きません然ういふ譯で境内は人で埋るばかり群集して居りまする、處へ曉雲二天の兩人は參つて神社へ參詣をいたし境内を見物をして歩いたが曉『何と二天大層な賑じやな』二『左樣にございます』曉『大分面白さうな觀物がある故見て參らう』と二三軒の觀物小屋へ入つて見ましたが、又是は面白いものでございます、兩人は境内を立田飾り物なぞを見ながら參りますと、向ふから來た二三人伴れの者○『エ、オイ、何といふ固い頭だらう、才槌大槌で打つても頭に傷が附かないと云ふのは不思議に固い頭だな』△『然うだ、俺は負目にかゝつて一貫五六百取られてしまつた』○『そいつは馬鹿〳〵しいね、俺は三百取られたから廢してしまつた、何でも彼奴は魔法遣ひか何かであらう』△『然うでせう、左もなければあんな事は出來ません』と話しをしながら來る是を聞いて曉『もし〳〵お前さん方はそれは何のお話しで、未だ此の先に何か見る物がありますか』○『ヘイ、左樣でございます、是から少しお出なさると小橋がございます、その左側に出て居りますが、豆藏と云ひますか何と云ひますか知りませんが、前の處に大槌や才槌を置いて客から錢を取つて其の大槌や才槌で頭を打たせますので、乾度頭で受ける、若し受けられなければ錢を返すといふので』曉『成程』○『皆な面白がつて錢を遣つては其奴の頭を打つのですが、負い目になつて錢を取られてしまひます、マア、行つて御覧なさい』曉『それは面白い、一ツ行つて見ませう』と其の場へ這つて參りました。

花柳病　皮膚病　須古醫院　京城府永樂町一　商品陳列館通坂の上　電話二一〇二番

京呉服　京都小松町一丁目　たまや出張店　電話二一九六

十月十四日九星　舊九月十七日甲申　本命四緑　閉　友引

▲四緑 成緑を結ばんとす注意新事見合 北方は吉▲五黄 腕づくにゆかぬ事有日新事手控萬事は吉 女子は行儀を守らるべし▲六白 平運の日と雖も新事控目の方吉 萬事內外は妨なし▲七赤 其迎々々散財有日 新事手控萬事は吉 婦人と交渉を忌む▲八白 不理解に終る事有日新事手控萬事は吉 女難失物に用心の事▲九紫 大勝利の日轉居開業入學名弘 求職金談結婚定期取引等萬吉▲一白 拍子よき日轉居 出旅求職名弘建前金談結婚普請 吉物に勝の日▲二黒 好運のたらぬ事有日新事手控萬事は吉 買物に用心せらるべし▲三碧 同情多く物の成就すること有る 萬事で吉 他人良報を得へ來る

琴古流 尺八樂譜解説 一部二十錢 郵税二錢
琴古流 尺八樂譜 目録希望者は郵税二錢
東京小石川區大和町 尺八教授 水野呂童

酒煙草きらひになる藥
禁酒丸……禁煙液……
どんな酒煙草のみでも害なく心から嫌いになる郵券二錢送れば説明書及大澤博士の禁酒禁煙論進呈 其他名士の
本舗 大阪市南通二 森田商店

月やく
月やくなきに御心配の方は三錢切手封入御手紙下さい害なく身體に通經する良法速に御知らせ致します
東京神田錦町三ノ一九 境田けい子

自然の黒髪の色艶に染まる
シラガ赤毛染 ナイス
ナイスの特長
●タッタ二十分で染る
●自然の色艶に染まる
●用法至極手輕
大瓶七十錢 小瓶四十錢 男子用三十錢
丹平商會

糸は尾琴屋
▲本練絹縫糸 色三十種
▲絹紡績糸 色三十種
▲藤小町糸 色三十種
▲羽二重糸 色十六種
▲極天釜糸 色二百種
▲美針刺繍糸 色二百種
甲種 瓦斯下糸 乙種 かすり糸
▲はんかち糸 色四十種
▲絹ざし糸 色四十種
▲糊引青糸 色三種
▲仕つけ竹糸 各種
▲レース糸 各種
▲バテン用めつき糸 白
▲かたん糸 各種
▲木綿 十六入三合 十六入四合 廿二入四合 廿二入二合 卅二入四合 各種
本店の糸物は東京製の品質優良品のみ仕込み仕り京阪地方の不良なる絲類は一切取扱致さず候
京城明治町筋 糸組商 尾琴屋 電話一三五九番

こんないよい子供

の出來たのは命の母で子宮病が治り身體が丈夫になつたからです身體を健康にするには北角佐藤西崖三醫學士の書かれた

婦人病者の心得

をお讀みなさい 本書には姙娠の原理から婦人病一切の治療法が詳しく説明して有升之は本家へハガキで申込次第無代送呈

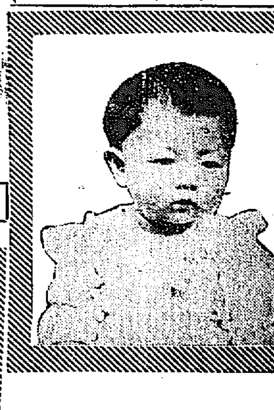
早く試み玉へ

●白帯下なか血に苦しむ人
●脚腰冷えて頭痛する人
●子宮病にて下腹の痛む人
●逆上にて脊肩のこる人
●ヒステリー血の道の人
●月經滯り或は不順の人
●つわり又胸先へ差込む人
●卵巣炎・輸卵管炎の人
●浮腫痺れ病氣の人
●腦神經衰弱の人
●貧血顔色惡き人
●頭痛眩暈に苦む人
●癇高ぶり、心悸亢進の人
●安産肥立ちを望む人

命の母 子宮靈藥 笹岡

東京京橋區新榮町四丁目一番地
本家 笹岡省三藥房
振替東京五〇五〇番 電京二三〇一番

女子出産の禮狀　福岡縣田川郡上野村 內山あつ子



健男子を産むた感謝　奥市愛宕町 香川熊二郎君愛兒

愛兒を擧げた　小倉市鍛冶町一 畠中百合子夫人愛兒

女子分娩の喜び　福岡縣田川郡上野村赤池 內山あつ子夫人愛兒

男子出産の感謝　武州飯能町停車場前 横田貞二郎君愛兒

男子分娩しました　紀伊國田邊湯泉 金谷安一郎君愛兒

女のくすりで一番よくきくのは命の母です

ソレハ何故――曰く
第一流の薬學博士下山先生が
命の母は
婦人藥として坊間に存在せる諸藥劑に比して卓絶せる効驗あるを余は證明す

これぞ婦人の最良藥

命の母藥價
二日分 廿五錢　七日分 八十錢　二週分 一圓五十錢　五週分 三圓
加減命の母　五日分 八十錢　十日分 一圓五十錢　卅日分 三圓　二ケ月分 五圓

買方
到る處の信用ある大藥房にて頒賣せり。品切れの時は本家へ申込次第直送る

御注意
命の母には數種の加減藥がありますから本家へ申込時は容體明記あれ

京城日報 第三版
十三日夕刊と合せて八頁
發行所 京城日報社 京城太平通一丁目 發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 小川三之介

資本制 京城日報

我朝鮮及び隣邦支那等は、其經濟組織が漸次變化して、今方に文明國の資本制を實現すべき時機に瀕したりと雖も、資本制の第一要件は産業資金なり。資金を投ずること多からざれば、資本制は整備すべからず。其農業は直接に大資金を要求することなき爲め自ら相當の發達を見めし得べしと雖も、鑛業製造工業交通運輸業のごときは、其資金充實して初めて其事業の發達を見るべく、我亞細亞大陸の此種の事業の進歩の遲々たる亦其故なしとせざるなり。

我朝鮮は日本帝國民の投資地たるや言ふまでもなく、隣邦支那亦主として我に就て資金を求むるの觀あり、歐米諸國民亦甚だ支那投資を喜ぶの姿ありと雖も、一昨年歐洲戰役開始以來、歐羅巴諸國の全資本を擧げて戰役の用に供して猶ほ足らずして、更に之を外國に求むるといふ次第にして、彼等の支那投資は、當分絶望と云ふの外なく、支那人の資本も求むべきものは、只我日本と米國とあるのみ。

一昨年以來世界經濟上の好地位を占むるものを北米合衆國と爲す。此度の戰役に際して、強大國民にして局外中立を保つものは只一の米國あるのみにて、同國は戰時經濟に就て其利益を收むること甚だ大なり。戰爭脚始當時は、米國の商工業も亦多少の打撃を被むりたるに相違なしと雖も、幾くもなくして回復し、其軍需品供給者たると同時に、交戰國に代りて國際貿易を擴張し得べき好機會を把握し、其輸出の輸入に超過すること夥しく、昨千九百十五年中にて、輸出超過三十四億圓に達したり。而して米國は交戰國の軍事公債を、其國内にて發行するを許さずと稱すれども、爲替調節の爲めに已を得ざる場合に限り、外國證券の發行を認む。過般英佛公債十億圓を引受けたるは、則ちこれが爲めなり。是れ世間米國は歐羅巴諸國に對して債務國たりし地位より一轉して、債權國となりたりと爲す所以にして、米國民は其增加せる資本を擁して、一面には之を歐羅巴に貸附け、一面には之を支那其他に投ずることを務めつゝあり。然れども世界の一方には、歐洲戰役といふ空前の大事件あり。交戰者は則ち資本の浪費者なり。英吉利の一日の軍費は五千萬圓を越ゆると稱す。其他の諸國の軍費を合算するときは夥しき鉅額に上るべきや論なく、其影響は全世界に及ばざる可らずして、北米合衆國の過剰資本を此に仕向くるとも、僅かに其爲替調節を全くするに止まる。是れ其の南米投資が殆ど中止の姿となれる所以にして、南米既に然り。遠く之を亞細亞投資に仕向くる餘裕は蓋し多きを得ざるなり。我日本とても、既に二回までも露國證券を引受けて、其爲替を調節したり。今後も亦同樣の手段を繰返すことあるべし。是等戰爭の影響あり、則ち其投資力はこれが爲めに制限さるべく、朝鮮及び支那の資本制は、世人の希望するが如く急速なる發達進歩を見るべからざるは、亦已むを得ざるの數なり。

朝鮮の古城郭(十) 八木奘三郎

(四)歴代城郭の變遷(承前)

(ロ)鳳山郡の土城 京義線の鐵路を西に進めば、大同江岸の手前數里の地點に沙里院驛あり。其東南約二里近くの平野に土城あり、東國輿地勝覽に之を記して次の如く云へり。

古唐城。在郡西十二里、土築、周四里、高二十四尺。

此文現在の土城址と一致せず、蓋し現存の土城は方約四十餘、最高の土居丈許に充たず。然るに『周四里、高二十四尺』とあれば非常に大差あり。假令高さは勝覽記述後、漸次低減せりとするも、周圍の大きさは事實と合はず。故に右は誤傳か誤植か、若くは誇大の記事と見ざる可からず。何となれば朝鮮の一里は約四丁近くにして十二里は日本の一里十丁以上に當る可し。されども事實斯る大なるものにはあらず、併しながら右の記事を助けんとせば、當時は別に外郭ありて勝覽の編者は之を記述し、而して爾後其外郭は取去られ、内城のみ殘存せりと云はゞ、其主張も通らざるにあらず、されども此説は猶再探を待て決す可き必要あり。唯だ古代の築造其儘とせば二丈四尺の土壁は餘りに高きに過ぎ、且つ斯る大堤に類するものが、近世に至りて俄に除去せられしことは餘りに不都合の至りと云はざるを得ず。故に孰れにせよ此古城は充分精査の餘地あるものと謂ふ可し。但し此城址は關野氏一行の調査に依り帶方郡治の跡と稱せられしが、現在の土居は多く舊時の古瓦片を交へて築造せるに依り無論後世の作ならんも、屋瓦の形式と作法とは大同江邊の分と大差なく、加ふるに此近傍には旣塚所々に散在し、就中沙里院線路脇の古墳よりは帶方太守の砥銘あるものを出せしにより、彼是を推考して帶方郡治の遺跡と認むることは先づ穩當なる可し。此他粘蟬縣治の址と思はるゝ箇所は龍岡郡の海雲面、城釆洞に在り、東西約四百尺、繞らすに土居を以てすと云ひ、又瓢塚のみありて未だ土城を見ざる箇所は黑橋近傍、殷栗方面より近くは京畿道の金浦邊にもあり、思ふに是等の地方も將來土城迹を發見する機會ある可し。以上記するが如く、樂浪、帶方時代の土城、若くは古墳の類は漸次浿江近傍より其以西の地に發見すれども、偶ま土居を存するものは皆な後世の修築、或は改築に出づるを以て、創始時代の築城は其如何を知る可らず。然れども予は之を以て土城と認め、且つ多くは方形なりしことを信ずるものなり。其理由は古書の記載と、地形上と、他の類例とより立論せざれば不可なるにより、以下其點を記述す可し。

黄海道を縫うて(四) 尉の子生

△傷しい敗殘の影

山の見物を了へて事務所に引き取ると其處には先發の小林氏が轍寧から廻して呉れた腕車が待つてゐた。一見老朽の車であることは知つたが乘つて見ると老朽などゝいふ文字は韓國政府時代に過ぎ去つて仕舞つて今日では鋲と針金の助けに依り漸つと腕車の形體を保つてゐるに過ぎぬ代物である。之れでも有りし昔は都大路を縱横に飛むだものであらうが斯樣な僻地に敗殘の影を止めて行人の嘲罵に任せてゐると思ふと甚だ同情に堪へぬ、若し此の車で威勢よく走つたらものゝ三十分を經たぬ内に車體は滅茶〳〵となつて仕舞ふことは請合だが其處は老鍊な鮮人車夫丈けあつてカマニー〳〵煙草を吹かし乍ら半町行つては停り一町行つては停り手を下して遣す事……

△篠子の樣な道路

處が車も車だが此のまた道路が車以上に物騷な道路で路面一體凹凸の極を盡し、牛車の轍址は甚い處になると二尺にも達してゐる車上から眺めると頂度使ひ古したサヽラの上を行く樣である。四五日來打通しの日和ですら此の通りだから雨でも降つた日には到底も人間の通れる處でない。此の車にして此の道あり而かも夫れが轍寧から信川まで四里を打つ通してゐるのだから豈夫れ悲觀せざるを得むやで遂には我慢を以て任ずる自分も遂には尻の痛みに堪へ兼ねて泣き出したくなつて來た。抑も此の道路は沙里院海州間二等道路の分岐路で三等道路ではあるが運輸交通の上から見ると二等道路として決して恥かしからぬ地の利を占め、信川郡内は勿論其の附近及び奧地の物資にして鐵道便に依るものは出入共如何しても此處を經なくてはならぬ、從つて車馬の往來も常に絶へず行人絡繹として甚だ賑やかな街道だが、惜しい哉此の邉は一帶泥土許りで砂といふものが無いから降雨毎に大變な泥濘となる、砂が無くては道路は固まるものでない。其處を馬が行き車が來るのだから堪らない。轍の跡には轍を敷き蹄の跡には蹄が印せられて凹所は日に深くなり凸所は日に盛り上つて來る。

△地方民等の當惑

地方民の言に依ると信川邑から一里許りの所に砂のある地があるが之れを賦役で取りに行くとすると遠い處は三里以上を運ばなくてはならぬ。運搬用具でも整備してゐるなら兎に角目下の現況では到底賦役で此處から砂を運ぶ抔といふは不可能、故之れは如何しても二等道路として道廳の補助を受けるより外に手段がないさうである、开て二三の有志は口を揃へて自分に本道路の根本的改修の要を述べ如何かウンと新聞に書いて當局を動かして貰ひたいと云つた。

○社稷壇小集

亡友の遺稿を夜や蚯蚓鳴く 淡々
冷や容疎なる瀟見堂 同
不知火や釣鐘樓の人の群 禾村
子褒ぐて片付く厨に蚯蚓鳴く 同
生靈集つて海一面の業火哉 風佛
裏納屋に南瓜三つ繋りけり 同
三年の外史終へたる夜學哉 陰州
糸瓜の家の間近や蚯蚓鳴く 同
渡し場の上り船待つ冷やかに 木東
水了とま暫し千鳥の鳴きやみ 同

獨逸語界最初の企畫

第三高等學校教授 文學士 片山正雄先生著
發兌 東京神田錦町一ノ二 振替東京一三九三三 博育堂

初版賣切再版成る 夏休中に

獨逸文法辭典 附 詳解獨逸文典

特價提供

五大特色
(一)本書は文法の辭書にして日本に於ける最初の文法辭典也。系統的に文法上必須の單語を集めて各方類的に其變化、用法を説明し正確なる邦譯を以てす。(二)本書は文法上の辭典部に於て其れ自身の文法の解説を有すると同時に附するに文典部にて同一品詞に共通する規則の説明を付す。(三)各單語は辭典部に於て實用的文典也。(四)本書は即ち最高等の文典にして見ざる可らざる多くの變態及例外を採擇せり。(五)本書は文法上のみならず普通の文典に日常生活にも缺く可らざる慣用語を含有す、故に作文語彙として最も適切也。

四六判六號ポイント 五百十頁 正價金二圓八十錢 特價二圓五十錢 送料八錢

邦人の爲に書かれたる語學研究資料

從來邦文佛蘭西文典も絶無にはあらずと雖も多くは佛蘭西人の爲めに書かれたる文典を其儘翻譯したるに過ぎず、邦人の爲めに最も適切なる文法書を見ず。著者常に學生の爲めに好個の參考書無きを遺憾とし、邦人の爲めに精確なる智識の修得に苦心したる結果、茲に獨創の方法に據りて、本書を編纂せられたり。乞ふ速かに一本を座右に備へられよ。

詳解佛蘭西文典

陸軍士官學校教授 文學士 折竹錫先生著
四六判九ポイント 活字四百餘頁上製 正價金一圓五十錢 送料金八錢

特約店 京城本町一丁目 大阪屋號書店 電話二〇八六七番 振替京城 (同店)旅順・鐵嶺・釜山

日ノ出向鳥印學生帽子發賣の主旨

從來學生帽子は種類多數市場に販賣せらるゝ爲御購求に際し御選擇に御煩雑なれば弊店は此處に最も需用ある價格の三種を選定し全國均一販賣値段を企圖したる次第にて此の學生帽子は常に原料を選び製帽上多大の改良を計り他の同價格の製品に比し決して遜色なき事を自信する處なり學生帽子は教育品の一部なるが爲に多大の利益を計らず薄利多賣の主義を取り以て多數學生帽子中實に安心して御買求めの出來得べき優良品なりこの御信望を得たく此際御試用の上發賣の主意の違はざる點を御鑑査の上何卒將來相次きて多數に御購求あらん事を切望する所なり

日ノ出向鳥印學生帽 全國均一販賣値段 到る處の帽子雑貨店にて販賣仕候
A號 金壹圓貳拾錢
B號 金八拾五錢
C號 金七拾錢

製造發賣元 東京市日本橋區馬喰町一丁目 吉安商店 電話浪花特長二六六番 長一九八三番 振替口座東京一七三五八番

懸賞字さがし當籤發表

正解 日ノ出向鳥印學生帽

先般暑中休暇の御慰みとして懸賞字探相催し候處御盛大なる御同情の下に應募總數三十五萬八千六百九十五の盛況を呈し候は一に各位の御熱心なる御同情の賜と深く感謝仕候 然るに正解答に預り其數の節は早速御披露仕る可き處中上候就ては御豫告通り九月十日弊店樓上に於て新聞記者並に通信社立合の上嚴重に抽籤の結果左記之通り一等十五人(貯蓄債券額面五圓各一枚)二等三十人(A號日の出向鳥印學生帽子各一個)三等五十人(B號同學帽各一個)四等八十人(C號同學帽各一個)五等三百人(上等鉛筆各一打)當籤致候依て賞品は順次發送中に候(五等省略)

一等當籤者

住所	氏名
東京市芝區白金三光町五四八	渡邊善夫殿
東京市淺草區黒船町一	坂本定雄殿
横濱市壽町一丁目百三十四	高田光雄殿
仙臺市勾當臺通六番地	大松澤[illegible]殿
秋田縣南秋田郡[illegible]	高橋[illegible]殿
靜岡縣引佐郡[illegible]	野澤[illegible]殿
京都市大和大路七條下ル本町	池部[illegible]殿
大阪市南區[illegible]	古藪[illegible]殿
和歌山縣[illegible]	佐々木[illegible]殿
福岡縣[illegible]	三原[illegible]殿
福岡縣[illegible]	[illegible]
鹿兒島市[illegible]	山下[illegible]殿
北海道夕張郡[illegible]	岡本[illegible]殿
朝鮮京城西小門町百二〇	和田[illegible]殿

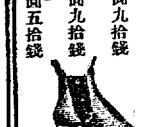
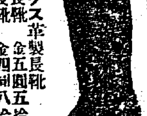
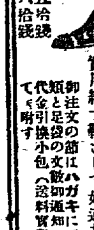
二等當籤者 [illegible]

三等當籤者 [illegible]

四等當籤者 [illegible]

東京三金特賣品

ボックス革製編上靴 第壹號 金貳圓五拾錢 第貳號 金參圓五拾錢 第參號 金四圓五拾錢

ボックス革製雙型靴 第壹號 金貳圓五拾錢 第貳號 金參圓五拾錢 第參號 金四圓五拾錢

ボックス革製深ゴム靴 第壹號 金貳圓九拾錢 第貳號 金參圓九拾錢 第參號 金五圓五拾錢

ボックス革製長靴 本長靴 金五圓五拾錢 半長靴 金四圓八拾錢


上圖の品一糎は精選せる材料ご熟練なる技術こを以て最も入念に製造せし品なれば一般實用紳士靴として好適なり
御注文の節はハガキにて靴の種類と足袋の文數御通知あれば代金引換小包(送料實費)にて御送附す

東京市芝區愛宕下町 三金高等靴店 電話芝六九〇番 振替東京一七一一三番

物品購買入札
石炭(無煙塊炭)拾六萬貫匁 一、京城納 木炭(根炭)七萬貫匁 一、龍山納
右購買入札ス詳細八十月十三日以降朝鮮總督府官報若クハ當部門前掲示ニ依リ朝鮮駐劄軍經理部

白檀油の代用
内服治淋剤として其效果を公認せられたる白檀油と化學的效果を等ふす治療的効果白檀油と相伯仲し殆んど消化障碍なき特徴を有す
本邦產植物より發見せる純内國產なれば價格低廉なり故に本品は最も優秀卓越なるとして好評嘖々たり
文獻見本學宗に限り本社より進呈
發賣元 三友製藥合名會社 大阪道修町
特約店 東京本町 武田長兵衛 小西新兵衛

購買 龍山陸軍倉庫 玄米 精米 詳細ハ十月十三日以降朝鮮官報ニアリ

十三日朝刊 十二日の十二月限 十一圓九十三錢

京日案内

開店大賣出し 正札屋吉店 本町三丁目六番地(魚市場筋向ひ)
恩給年金利息分即金 西村商會
産婆 小倉松野
店員募集
宅地貸賣
開自動車 廣橋自働車

▲俊場の手振 ▲能く買ふ ▲現物界 [illegible]

◎英國軍事豫算提出
飽迄敵をして損害を償はしめん

英國首相アスクイス氏は下院に對し更に十五億磅の軍事豫算を提出したるが首相は右に就て説明を爲したる後曰く聯合國は斷じて平和を假想せる妥協案に應ずる事を得ず吾人は飽迄敵をして過去に於ける吾人の損害を償はしめ更に將來に對する保障を得ずんば已まずと（桑港電報）

◎參政官任命如何

内閣の更迭に伴ひ各省正副參政官を任命すべきや否やの問題は猶決定せず研究の上孰れにか決すべきも既に官制の存在せる以上空位の儘と爲し置く譯にも行かず任命するとせば衆議院議員側より任命し得る餘地あるを以て人物の詮衡には毫も苦しからず云々と兒玉内閣書記官長は語れり（東京特電）

◎本野大使就任承諾

露都駐箚本野大使は外相就任の旨承諾したるに付十二日外務省より歸朝命令を發したるを以て急遽歸朝すべし（東京特電）

◎龍陸兩將軍消息

廣東特電に依れば龍濟光部下の軍八千は廣東、香港間の虎門寨に屯在し龍濟光は昨今洪北に在り尚陸榮廷部下の軍八千は廣東に屯在し陸榮廷は佛山に在り來る十四日には廣東に赴くべしと（上海電報）

◎巴布札布戰死？

既電の如く林西縣に殺到せる蒙古軍は其數三千餘名巴布札布之を率ゐて北京を衝くの計畫ありと傳へらるゝも其實掠奪を恣にするものゝ如し尚蒙古軍は熱河の討伐官軍と戰ふて大敗し巴布札布戰死せりとの報あり（奉天特電）

◎伊軍進擊塹壕占領

羅馬來電＝カルホ地方に於ける伊太利軍はトリエスト方面に向つて再び進擊を開始し墺軍塹壕數箇所を占領し捕虜五千名を得たり（倫敦電報）

◎新聞關係者大會

十二日午後二時より築地精養軒に於て排閥記者團並に新聞關係代議士大會を開く會する者二百五十餘名山田一氏を座長に推し宣言及び左の決議を爲せり（東京特電）

元老の政治に容喙し專斷を極めしは憲政の蠧なり吾人は其の責任を糺さんとす閥族官僚の飛躍をして政柄を乗らしむるは憲政の退歩にして徒らに國威を失墜するのみ吾人は飽迄之れを惜む

◎遣露宮御通過

閑院宮殿下には十二日午後三時十五分平壤御着同二十八分御發車あらせられたり驛構内歩廊には文武高等官名譽職員赤十字愛國婦人會在郷軍人會員學校生徒等奉送迎を爲せり歩兵第七十七聯隊の一箇小隊は御車前に堵列し捧銃の禮を行ひ君が代の喇叭を吹奏せり殿下には展望車のデッキに立たせ賜ひ一般奉迎者に對し擧手の御答禮を遊ばされ三時二十八分御發車あらせられたり（平壤特電）

◎日郵社員行賞

日獨戰役に貢獻したる日本郵船會社須田利信氏以下に對し十二日左の如く行賞發表ありたり（東京電報）

勳四等 須田 利信
勳五等 林 民雄
勳五等 和田 稻吉
旭日小綬章を授け給ふ
叙勳四等授瑞寶章賜金三百圓（各通）

◎滿洲より

▼特産出廻如何

本年も愈々特産出廻りの期に入り來れるが本年の農産物は全滿一樣に豐作と目し得べきを以て特種の事情發生せざる限り前期に比し其の出廻高多しと認むるを得べし今その豫想を聞くに昨年長春驛に出廻りたる大豆は廿二萬餘噸なりしが本年は豐作に加ふるに多少新開墾の地を見たれば勞々少くとも三十萬噸内外に上るべく若し此間吉長鐵道の改約成り同鐵道驛に相當設備を施すを得ば一層その出荷を容易ならしめ同鐵道により更に八九萬噸の大豆を長春驛に集むるを得べしと云へり又本年は小麥殊の外豐作なりしに我が北海道及び米國の小麥は不作の模樣なれば大豆と共に小麥の出荷も非常に多かるべく而して是等の特産が冬季結氷季に入ると共に盛んに南下し來らば海運界猶ほ當調に復さゞる今日その船腹不足の爲め大連埠頭は復々特産物の堆荷に困却し取引及び輸出の上に影響を及ぼすべしとて昨今既に之に關し種々の講究を廻らされつゝあり

▼取引所建値問題

滿洲の官營取引所は大連、開原、長春の三箇所に設けられ都督府は滿洲幣制の統一を欲する爲め當初總てその取引建値を圓金とするに決し既に府令を以て此旨公表したる程なるに關係支那人側より種々の苦情紛出せる結果已むを得ず大連取引所の如きも其の建値を圓銀となしたるが長春重要物産取引所もその當初は之を金建とする筈なりしに先物取引の追々行はれんとする時期に入る支那商務總會其他の關係有力者より金建取引の到底不可行なる所以を唱出し來り是非銀建に變更せられたしと都督府及滿鐵本社に種々請願して止まざるより其の事情を調査せしところ問屋等農家の關係上その農家が猶は一般に金本位を了解せざる今日強いて金建取引を行はんが此間多くの不便と紛擾を來し折角の取引所をして結局空名を維持するに過ぎざる結果を生せんとの事にて殊に大連取引所の建値を圓金主義にて而かも圓銀本位に讓りたる都督府は長春取引所の建値も亦之を圓銀本位とするに至るべしと傳へらる毎度支那側の苦情にて幣制統一上極めて必要なる金建取引の行はれざるは遺憾千萬なり（大連）

◎鮮内の信徒數

鮮内の信徒者數は各宗各派を合し大正四年末現在總計四十五萬四千五百七十六名にして三千四百六個の分教所あり、而して教派の内信徒の最も多きは朝鮮耶蘇教長老會にて十一萬九千六百七名を算し、天主公教八萬一千八百七十八名、朝鮮寺刹の五萬七千二十三名、美監理教會三萬九千二百六十八名等順次相亞ぎ眞宗本願寺派は三萬七千七十八名、同大谷派は二萬四千六百八十七名、天理教は二萬一千五百八十三名、金光は一萬一千四百名なるが、其の後今日までに增加したる信徒數一萬九千六百五名の中重なる宗派を擧ぐれば長老會六千百五十一名、朝鮮寺刹三千四百五十八名、美監理教會二千二百六十二名、眞宗大谷派一千五百七十八名天主教會一千四百七十三名、曹洞宗一千五十二名等にして天理教は却つて一千三百十二名の減退を見たり

◎京釜線改修
中間驛の改廢

京釜線改修工事の進行し新線の列車通過可能となりしを以て十一月一日より、若木金泉兩停車場間に總尾大新の兩驛を新設し金烏山停車場は之れを廢止する旨十一日公示あり停車場間の哩程は左の如し

若木總尾間 八哩一分
總尾大新間 八哩三分
大新金泉間 六哩二分

▲京釜間哩程延長 右の結果南大門釜山間は現行哩程二百七十五哩なれども十一月一日以降二百八十哩六分に改正さるべしと

◎打綿と元山

▲打綿の統一 元山港輸移入品中最も主要なるものに屬し其額年々十數萬圓を算しつゝある打綿は從來移入に際しては元山商業會議所打綿檢査規則に基き檢査を經たるものにて一梱二十五匁附四百枚又は一梱十六匁附四百枚入の如く量目を一定し且つ品質の統一を圖り取引を簡易ならしむると共に專ら需要者を惑はしめざらん事に努め居たりき▲減量の粗製 然るに最近交通機關の整備するに伴れ某會社製品の如き巧みに減量を施せる粗惡品を元山商業會議所檢査區域外なる隣接地に移入し來たる上窃かに元山方面に運び入れ販賣するものあり而も比較的量目に對する觀念に乏しき朝鮮人の多くは量目の如何を顧みず只價格の低廉なるに眩惑され之れを購ふの傾きありて其勢力又侮るべからず▲檢査の全廢 玆に於て乎過般元山商業會議所は評議員會の席上鳩首凝議の結果獨り元山のみにて嚴格に檢査を行へばとて從來の如く理想の效果を擧ぐるの絶望なるものとなし遂に本期より打綿檢査規則を全廢するの止むなきに至れり▲自然の要求 されば若し此の儘に放任せんか兩者の競爭激甚を加ふるに從ひ減量は遂に粗製濫造となり需要者側の不利益は勿論取引上の煩雜を來すはいふべからざるものなるを以て元山商業會議所が檢査規則を全廢するに際し當局に對して全般に亙り打綿の取締りを要求したるは之が爲なり（元山）

外相就任を承諾せる 本野駐露大使

◎滯納處分方法變更

京城府は從來納税怠滯者に對しては一定の納期を經過したる後尚ほ一箇月の猶豫を與へ居り其後に於ても尚且つ納入せざる者に對して督促狀を發することゝなし居たれども比較的多額の納税を爲すものにありては其納入すべき金額を他に融通して利殖の途を講ずるに於ては督促手數料より數倍する利益を得るため故意に納入を怠る者頻出するの狀況なれば今期よりは納入期限經過後一齊に多額納税者より滯納處分を行ひ然る後ち他の一般怠納者に及ぼすことゝなりたれば多少徵税成績を良好ならしむるに至るべしと

◎池田長官縱談

咸鏡線起工元山及び金剛山地方を視察して歸來せる池田長官は曰く

▲郵便速達と地方 咸鏡線文川永興間が九月二十一日より開通した、之れが爲め永興以遠の咸南各地に到る郵便物は從來より一日乃至二日宛速達する事となる、鐵道の開業は地方交通の便を進むると共に通信上に利する所少なくない、斯くして文化が進み産業が發達するので地方住民が鐵道の開通を祝するのは蓋し當然である

▲元山港の將來 元山の築港も大正四年度から三箇年繼續事業として施工されてゐる、目下の所防波堤工事も餘程進み港内の浚渫も著々行はれてゐる、元山は北鮮第一の關門、鮮露貿易には樞要な土地である但し目下の所鮮露間の貿易は米と靴位で殆んど其外にないが元山の築港完成する頃になつたら何等か兩地新産物の有無も相通ずるやうならうし更に日本海を隔てゝ相對した裏日本敦賀舞鶴との間の交易にも優遇の地位を占めてゐるから將來は愈々有望の港と思はれる

▲元山と金剛山 元山金剛山間の航路は朝鮮郵船で經營してゐるが相互日發でないから其間の連絡が理想的に行れぬ、餘程航便をよく利用せねば金剛山中に空しく幾日を過して船を待たねばならぬ事となる、これ氣輕に同山を探勝せんとする者にとり少なからぬ障碍である、さりとて元山溫井里間に自動車を飛はす事は三十里餘の道路の關係や乘車賃が高かつたりする爲め旨く連絡を見れまい、で金剛山を汎く天下に紹介し内地からでも多くの客を引かうとするには長箭元山間の日發航路を計畫せねば不可ない

▲金剛山中の道路 金剛山中の道路も近年餘程改修されたと云ふが尚ほ危險を感ずる所が多い假へば溫井里より萬物相へは大分道もよくなつてるが溫井里より神溪寺を經て九龍淵方面に達する道路は險惡で命懸けの探勝と形容してよい位だ餘り金剛山のやうな雄大な風光に人工を加へると其の景色を殺すやうな事になるから其點も注意せねばならぬけれど危險のない程度に道路を治す事は今日の急務だらうと思ふ此點地方當局の一考を求めたい

人事消息

▲富田英驥氏（[illegible]）十二日夜入京浦尾へ
▲マツクムーレー氏（米國人）▲コリヂツト氏（米國人）十二日夜入京朝鮮ホテルへ
▲小原乙次郎氏（土地調査局監査官）十二日午後十時入京東京旅館へ

南窗北語

近く歸朝して外務大臣たるべき本野子の多趣多藝なるに隱れなき事であるが殊に油繪以外筆を執つても外交官中では高平男を除けば子の樣な能文家はまづ見當らぬ▲子の隱藝の中でも人の未だ餘り知らぬは小說を作る事である▲何時かも夫人との膠漆啻ならぬ處を小說に書き卸して故人となつた山田美妙に否を捲かせた事もあつた相な▲挂冠した大津文部參政官は大風呂敷持參で登廳し『下女の暇もらひ同樣サ』と澄まして居たが流石詩人の胸中多少の感慨なきにしも非ずと見えて平仄を並べて曰く▲匪々空甘幾俸錢、籌書堆裡送殘年、省樓今日掛冠去、身與天風共浩然とモ一つ凄じい處を御覽に供すると▲微官歎我俗塵羈、志在霙時思古賢、別有篠塲金職責、不堪刀筆送殘年には恐れ入るだらう▲竹刀を擔いで市川に引揚げた前警視總監西久保君に或人が、『貴下が金色夜叉の荒尾讓介のモデルだとの評判があるが眞實かね』と訊くと▲『馬鹿言ひ給へアレは物故した長谷川工學博士をモデルにしたのだと人から聞た事がある僕などは柄にない事だ』と打消した▲かと思ふと僕も責任解除で大正の荒尾になりをつた將來はボロ袴でも穿いて精々荒尾式を發揮するサと嘯いて居たとサ

◎間島砂金産額

間島は至る所砂金の産あり既に採取せ[illegible]穎九杉社不風褐子の砂金額は從業[illegible]員百五十名一日産額三十三匁次で[illegible]匁三圓五十[illegible]とせば一日八百圓一年二十八萬八[illegible]圓の勘定なるが結氷期六箇月間は作業を中止するにより[illegible]

[illegible]臨鎭屋町の八百屋殺しとして當時世に知られたる朝鮮人李鳳化（三七）は[illegible]きに大阪地[illegible]に於て死刑を[illegible]

◎廣告料を着服

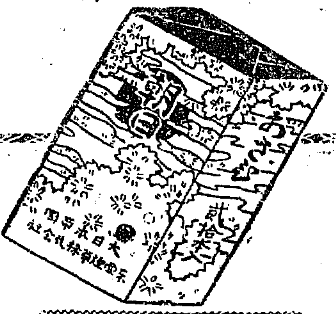
兵庫縣加西郡富合村生れ元山税關前赤田旅館止宿[illegible]に京城市中十六軒より取立てたる廣告料謝料金等十六圓餘を横領消費し[illegible]たる爲め主任に告訴せられ本町署[illegible]

[illegible]日家人の隙を覗ひ貯金通帳及び印章を窃取し郵便所より四十五圓を引出し[illegible]し鍾路署に檢擧さる

[illegible]行き電車五十號の車體に觸れ面部に輕微の擦過傷を負ひ共立病院にて應急手當を受けたり

[illegible]來朝鮮海峽方面は風雨を齎しつゝあるが該低氣壓は徐々に北東に進行しつゝありて十三日朝に至るも猶ほ海峽の天氣恢復せざるべき模樣なり

朝日空袋引換



◈空袋引換數變更◈

朝日 空袋 二十枚
御持參の御方には實物壹包を進呈致します
京城黄金町 官製煙草 京城 組合

朝日 空袋 二十枚
御持參の御方には實物壹包を進呈致します
京城長谷川町 京城官煙 元賣捌 組合

朝日 空袋 二十枚
御持參の御方には實物壹包を進呈致します
太田官煙組合

朝日 空袋 二十枚
御持參の御方には實物壹包を進呈致します
仁川官煙組合

朝日 空袋 二十枚
御持參の御方には實物壹包を進呈致します
開城官煙販賣組合
中田市五郎

◈時節柄汚染したる空袋は引換謝絶仕候

東亞煙草株式會社特約店

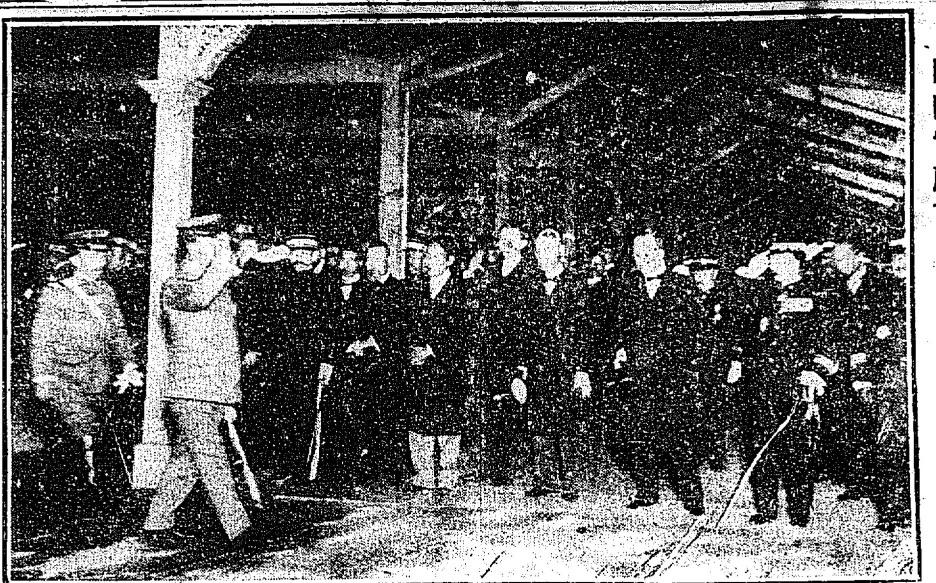
額に富めるは汪淸縣春芳社石頭河子の砂金鑛にて從業人員七百九十人日の産額が百匁餘あり右に亞ぎ延吉
識上も從業人員既に…あり十八個所の從業者人員は千六百五十人に及べり平均相當を假りに一
産額は必ずしも小ならざるなり（延）

◉鮮人死刑執行 先年大阪東
下に死刑執行され同人は南無阿彌陀佛の唱名を口にして絶命せりと（大）

屆は…廣告料及び購讀金の募集金に從事中九月一日より同月十八日迄

◉伯父の貯金を盜む 京畿道龍仁郡…生れの孔在根（二）は伯父に當る京城昌成洞孔順用方滯在中八月三十一
範（一七）は道路人夫として十一日午前十時頃黄金町電車交叉點附近にて小

◉天氣豫報（十二日午後十時 仁川測候所報） 十二日朝來九州西方海上にありたる低氣壓は益進展しつゝあり爲めに朝



閑院宮殿下 南大門驛頭朝鮮貴族團に御答禮

◉御機嫌いと麗しく

遣露宮殿下南大門驛御通過

畏き邊の思召を體し遠く露西亞に使せられたる閑院大將宮殿下には内山侍從武官長以下の隨員を從へさせられ御機嫌麗しく十二日午後八時五十分南大門驛御著、同九時十分再び京釜線を南へ御發車遊ばされたり、此日南大門驛頭には殿下を迎へ奉るべく待合所入口に日の丸大國旗を交叉しプラットフォームには

□奉迎送の官民堵を爲し煌々たる電光の輝ける下劍光帽影參差たる盛觀を呈せり構内奉迎送の官民は北方陸橋の下より愛國婦人會、赤十字社員、民間代表者、新聞記者、奏任文官、朝鮮貴族、外國領事、勅任文官の順序に整列し更に中央貴賓室入口を隔てゝ内鮮人武官、在郷軍人、學校職員の堵列するあり軍隊側よりは特に龍山騎兵隊の一箇小隊堵列いと森嚴に奉迎申し上ぐ、斯くて定刻ともなれば殿下の御召列車は煌々たるヘッドライトの光りまばゆく日の丸國旗を交叉しつゝ徐々構内に進行し來り奉迎者一同の敬禮の裡に第一プラットフォームの貴賓室前に停車す此時殿下の御召列車は燦々たる電燈の下

□燃ゆるばかりの紅葉の枝にて飾られたるが殿下は一ノ瀬驛長の御案内申上ぐるまゝに靜かにプラットフオームに降り立せ給ひ胸間に佩ばせられたる大勳位菊花大綬章の輝きと颯爽たる陸軍大將の御正服の英姿雄々しく拜し參らせたるが中央貴賓室前に出迎へられたる李王殿下と御對面あり續いて李堈公殿下並びに李埈公殿下とも御握手遊ばされいとも御機嫌美はしく拜せらる斯くて殿下には背後に隨ひ奉りたる内山侍從武官長、吉田式部官、安達公使、中島陸軍少將、中島御附武官の隨員を始め山縣政務總監、秋山中將、立花師團長、古海總務長、白水少將等を從へさせられ先づ陸軍將校團に於ける芳賀軍醫總監、趙副將、李副將等に

□擧手の禮を賜ひ更に眼覺むる許の在郷軍人會の旭日旗前より各學校生徒の堵列隊前まで進ませられ更に中央勅任文官席より外國領事團前に進ませられたるが此處にては

□二三の領事に對し難有き御言葉を賜ひ更に堵列者一同に對し御答禮あらせられたる後中央貴賓室に成らせられたり、此日貴賓室の裝飾は中央金屏を繞らしたる左右に老松葛紅葉

□刈萱の盆栽を設らへ大將宮殿下の左右にはカーキ色陸軍大將の御正服なる李王殿下を始め李堈公、李埈公兩殿下並ばせられたるが殿下には宇佐美長官、池田長官、國分長官及び總督府各高等官等に謁を賜ひ更に李載覺侯、李完用伯等の朝鮮貴族を始め更に京城府民を代表せる金谷府尹、府協議會員を代表せる中村再造氏、趙鎭泰氏並びに學校組合代表者岡直亮氏にも御會釋あり斯くて殿下には藤波通譯官の通譯にて李王殿下と種々御物語りあらせられたる後九時十分といふに

□再び驛長の御案内にて御召列車の貴賓室に御乘車後方に陪乘申上げたる内山侍從武官長と共に金色燦たる貴賓車デッキに起立あらせられ靜かに奉送者一同の敬禮に對し擧手の御答禮を賜はりたり折から御召列車の行手には十六夜の月影さやけく奉送者一同は一路の平安を祈り奉りつ猶ほ朝鮮總督府よりは殿下御一行に對し白蔘一箱を獻上し秋山立花兩中將は御召列車に陪乘釜山まで御見送り申し上げたり

▲宮には斯くてぞ御重任を果させ給ひつ

隨伴員 吉田式部官謹話

閑院宮殿下は既報の如く十二日午後南大門驛御通過御歸朝の途に上らせられたるが殿下が御旅行中の御動靜につき南大門驛頭に吉田式部官を訪ひてその談を求む曰く

殿下には先月十四日當地御通過後御都合により豫定の御旅程に一部を御變更あり、十五日を以て長春御通過、警戒の嚴重なる西伯利亞線に出り御渡歐の途に上らせられたり。隨行の人々は殿下が長き御旅程の御徒然を慰め參らすこともがなと思ひ居たるに時は好し西伯利亞沿線一帶の山々は紅葉の錦を織成し殿下にも殊の外此雄大なる

◼宮原の秋色を愛でさせられつゝ露國皇室の手篤き御歡待を受けさせられ莫斯科に御安著なりたるは二十二日午後一時なりき同地にてはグオルギー大公殿下を初め本野大使其他官民數萬人の奉迎を受けさせられ萬歳聲裡に御降車約二時間の停車時間を利用して大公殿下及び本野大使等と種々御歡談あり夫より本野大使も隨行の上直ちに露國野戰隊大本營所在地なるワルソーへ向はせられ二十四日同地著露帝及び皇太子殿下等の御出迎を受け御同列にて大本營に向はせられ茲に正式の謁見の式ありて我が 天皇陛下よりの畏き聖旨を御傳へ遊ばされ午餐の饗を受けさせられ陛下の御歡迎の辭に次で殿下の御答辭あり首尾よく

◼御大任を果させ給ひ同日午後同地御出發キエフル皇太后陛下を御訪問あり二十七日露都に御著二十八日皇后陛下に謁見の後ち露先帝の御陵に詣でられ六日間同地に御滯在相成りたる後ち十月二日同地發只今當地迄參りし次第なり、御旅行の全期間タチシエフ中將、ベザック大佐の二人終始御隨伴の任に當り萬事手篤き御歡待を申上られたるものなり。御旅行中の沿線の各驛は概ね日露國旗を掲げ或は附近を清掃するなどして砂を撒き或は青葉を以て裝飾し夜間はイルミネーションを施したるなど誠意のあらん限りを盡したるものと見受けられたり就中主要驛には往路は儀仗兵整列し殿下御閲兵の際は分列式を行ひ文武高官御送迎申上げたり是等儀仗隊には音樂隊によりて『君ケ代』の吹奏あるを例とせり歸路は露國の慣例により儀仗兵は整列せざりしも主要驛には文武高等官等奉迎送し居り又處によりては音樂隊を用ひて『君ケ代』を吹奏したるものもあり就中某驛の如きは音樂隊の用意なかりしため驛員の有志を以て臨時音樂團を組織し『君ケ代』を奏したるものすらありたり概して往復共沿道一般

◼人民の奉送迎者多く御停車驛以外の御通過驛にも何ほ數百又は數千人の拜觀者を見受けたり而して此の人々等はウラーを高唱し又は奉迎のため特に日本語を學び日本語にて萬歳を唱へたる所もありたり莫斯科、キエフ、露都等にては歡迎者の外盛にして何れも停車場前の廣場の如き何十萬とも知れぬ奉迎の群集を以て充たされ停車場も亦熱帶植物日露國旗等を以て盛なる裝飾を行ひたるもの多く分けても露都にては停車場より御旅館に供せられたる冬宮迄長き御通路の兩側には市民群集して御通過を待ち御通過の際は何れも帽を脱し

◼ウラー萬歳の聲天地も爲に崩れん計りなる盛況を極めたり斯くの如く官民共に熱誠なる歡迎を爲したることは露都に於て稀に見るの所なりと云ふ尙ほ且つ前記の三都にては市長は何れも殿下奉迎の辭を述べ獻上品を奉呈し其他の沿道の各驛にても記念品の獻上を申出づる者多數ありたり露都御滯在の間は冬宮に御宿泊前記の如く皇后陛下の謁見先帝御陵の參拜等の外莫斯科以來特に接伴の任に當られたるグオルギー大公殿下、首相兼外相本野大使、日露協會、市歡迎會等の招待を受けさせられ午餐晩餐等の盛宴に臨ませられる御繁忙の時間を割きて冬宮附屬病院、日本赤十字病院、騎兵士官學校、砲兵工廠、造幣廠、博物館等を御訪問又は御巡視あらせられたり御旅行の全期を通じて幸ひにも天候良好にして只露都に於ては

◼十月一日一回降雹を見たるのみなり其他は全御期間中一兩日位の曇天又は雨天ありしも其他は凡て好晴續きなりしのみならず寒國の常とて北風身に沁む晩秋の頃なるにも拘らず比較的に温暖にして殊に至る處殿下御通過の日は稀なる好天氣となりたるは甚だ不思議のことなりと何れも稱し居たり長春以來は冬服に御召換へ相成りたるも車内は暑きに過ぐる位にして車内の如きは暖室法を施さゞるに尙且食堂には旋風器を回轉したるの温度なりき斯くも稀有の天候なるのみならず加ふるに西伯利亞名物の一に數へられたる塵埃も起らず折柄なる暑からず寒からざる秋風を車窓より入るに委せて

◼殊の外なる御機嫌と拜察し奉り隨員の者等も度び合ひたる次第なり往復共列車は一等車なりしを以つて諸事に便利多く御旅行中の温度も最底四十度最高六十度位にて殿下下お車外に出でさせらるゝ場合には御要心のため外套を御著用遊さるゝも概して云へば小春日和の所謂日本晴れの天氣にて殿下も意外に思召されたるやに拜聞せし程也殿下には斯の如く御大任の重きさへあるに御交歡相續き聊かの御休憩の御暇もあらせられざるにも係らず元來御壯健なる御體質の御事とて終始御機嫌麗しきを拜したるは此上なき幸にして下々隨員の者よりも一人の不健康者も出さゞりしは重ね〲の幸なり尙露國皇帝陛下より殿下の請けさせられたる懇懃なる御待遇に關しては追て適當の時機に於て發表さるゝものと拜察致し居れり

◉揃の仕丁姿 三券番、兩遊廓の振つた趣向

來る十六日より執行の京城神社秋季大祭の準備整ひ祭式次第神幸行列順序祭典日時、道筋、大祭委員係員等の決定せる事は十二日朝刊所報の如くなるが本年は例の世話役中の世話役なる大垣老人が委員總長となり采配を振り居れる事とて各氏子に於いても頗る乘氣となり神輿通御の道筋に當れる各町に於いては十六日晝より軒毎に獻燈を掲げ花笠等を吊して裝飾を爲し景氣を添ふべく、亦餘興としては京城三券番藝妓總出にて例年の如く仕丁姿にて屋臺を曳き出し十七、十八の兩日囃子太鼓にて市中を練り廻る等、此外南大門外旅館組合にても屋臺を出して練り廻る事となり新町彌生兩遊廓にても奇拔な趣向を凝すべく目下それ〲相談中なりと

新穀修祓式

▽京畿道より新嘗祭▽に奉獻すべき新穀△

新嘗祭に供御す可き新穀修祓式は十二日午前十時より京畿道富川郡桂陽面梧柳里に於て擧行せられたり此日晴れ渡り黄禾穣々たる野を吹く秋風浩蕩として快よく。四面に木柵を建て白砂を布き南面中央の門扉に奧まりて奉獻す可き新穀及神酒神饌を奉供したる齋壇に黄金の淺豐かに打寄する稲實にも目出度も尊き限りとこそ拜觀されぬ、參列者としては耕作者小峰源作氏松永道長官代理有賀第一部長高見技師、隈部殖務部長代理境警視、鄭郡守、林道書記警衛として赤平警部來賓としては在郷軍人團地方有志、新聞記者等數十名にて先づ定刻に到るや神官は降神式をなし祓いで祓式獻饌、祝詞奏上、奉獻者小峰氏の代讀として耕作狀況書朗讀、玉串獻上の後徹饌式終つて豫て設へ置きたる會場に於て直會の式をなして齋田修祓式を閉ぢ其より小峰氏獻穀を奉戴の上一時二十一分梧柳洞驛を發し道廳金庫に納めたり

◎無門會第三次例會

無門會第三次例會は來る十四日午後四時より京城商業會議所樓上にて開催當日は禪海一瀾の第二則『允報緩中』及び第三則『惟聖』に就き後藤瑞巖老師の提唱あり何人にも參聽を許す由

えんげい

▲壽座休場 市川市十郎一座は十二日より十六日まで舞臺道具準備のため休場、十七日より更に華々しく開場する事となれり
△有樂館 十二日より全部新寫眞と差替へたるがその重なるもの左の如し
△實寫英國皇帝水晶宮行幸△冒險危險な射的△滑稽泥棒廣告屋△新派悲劇身代り△冒險奇談魔ケ島喜劇伝平外記

眞に有益なる十月號
富之研究
◎芳香原料製造◎現代商業繁昌秘訣◎靴下製造業開始法
▼名士對話錄▼簡易養鷄成功法▼新時代の常識▼富の福音
簡易生命保險詳解 之さへ見ればすつかり解る
◎鳥藤實歷成功▼有望な工業技手▲致富研究欄▼天保錢時報
◎最近鮮滿巡行記◎自生葡萄から名産
一冊十錢郵税二錢 一年分一圓廿錢 本誌會員として各種優待す。
東京神田萬世橋 富之研究社 振替東京二〇〇八二

高等受驗講義錄
高等受驗學會 會員募集
◼各高等學校高工高商醫專陸海軍諸校文驗高等受驗者は最適切有効也
▼英語數學理化國漢文等充實… ▼講師第一流學者講義最明快也 ▼目下新學期開講五大特典有… ▼見本附規則書申込次第進呈…
東京市麹町區飯田町四丁目十六番地 高等受驗學會 振替東京貳六壹〇四番

朝鮮總督府勸業模範場纛島支場編纂
果樹栽培指針
定價二十五錢 送料四錢
◉京城日報評 總論、果樹園の組織、各論、果實の貯藏及其の注意、病蟲害防除法及び藥品並に蠟布訓製法の五章より成り且幾多の挿繪圖解を挿入して果樹經營の方法を指導する事懇切平明なり蓋此の種の著書少なからず然も朝鮮に於ける實際の結果に依つて成れるもの少なし敢て在鮮園藝家に一本を薦む
發賣元 京城本町一 電話六八四 振替京城二五七三番 大阪屋號書店

文學士寺田精一先生監修
トモダチ
◉一周年記念の十一月號
○鮮麗無比の教育的幼年畫雜誌○特別大懸賞あり
○記念大附錄トモダチ式飛行機競爭
毎月一回發行▽一冊十二錢税一錢 ▽六冊六十錢
東京麹町富士見町二 三葉社 電話番町四〇五八

贈正一位楠正成卿遺書▲四六判煩美本 正價金廿五錢（送料四錢）
楠公櫻井驛遺訓
櫻井驛に於て楠正成卿が正行卿に一巻の遺訓を授けたる事を知らざる者なきも其の巻き物中に記したる遺訓の内容を知りたる者は殆んどない今や本書は遺訓の原文を其儘悉く掲げ世に紹介す遺訓の後末だ軍慮を悟らざるを喚す故に余數年試る所の軍旨を記して一巻と成し之を汝に遺授すと常に此の君の書を誦して心智を證得すべし汝長ずるに及で君の爲に忠を盡し父の爲に仇を報ひよと云云とあれど單に行軍用兵の極意を傳ふるのみならず實に修身齊家處世の好典範なれば會社銀行商店等多數の人を使用する者及軍人學生乃至一般國民が謹で座右の銘と爲すべき者唯本書あるのみ實に無比の珍寶書也
東京芝愛宕町二ノ四十 大正書院 振替東京二八〇四 電話芝七八四六四

日本一パイン万年ペン
◉目錄申越次第送呈◉參圓八拾錢より（最新婦人用あり）
修理部（如何なる大破損も即時修繕）京城旭町二ノ六 東京植松出張所

稻扱機
籾摺機
（御希望の品御照會を乞ふ）
▼手押用動力用ポンプ ▼無煙安全風呂釜 ▼消火器、噴霧器 ▼繭乾燥裝置 ▼濾過機 ▼無煙ストーブ
東京市京橋區宗十郎町十一番地 工業商會

女鳴

渡邊默禪

「二三〇」愛の力！

異心から滲み出る血のやうな哀音に觸れた時に、さしも獰惡な惰性に全身を没して、猬の毛のやうな逆立つた反感を凡てのことに突立てる荒くれ男も、かたく口を噤んで、目を伏せて、そして呼吸もせずに謹聽しない譯にはいかなかつた。

實際優しい女性の熱した情緒に抱かれた場合には、どんなに頑なである石のやうな心も、裂の下の卵のやうに孵化らずにはゐない。こんな無智の男に向つては、いくら僕等のやうな書生が一本調子の理窟を持つていつて理性に打突つたところが駄目だ。それよりも感情、感情でゆくに限る。成程其處だ、其處だ。と鳩子と源太との話を傍で聞いてゐた大野はつくづくと自分の愚かさを悔いて

『おい、君。』

と呼びかけてから、

『君はまだ知らずに居るだらうが、このお嬢さんがどのくらゐ君の親父や妹に同情してゐなさるかといふ活きた事實を聞いたら驚くだらう。ちやうど彼の晩のことだが、君は親父と取組合つて逃げたらう。其處へ駆著けた僕が一思ひに君をやツつけてやるつもりで、持出して行つた銃の覘ひを君の背中につけたのだ。』

『ヽッ、私の……。』憮然として顔を擡げた。『へえ―。』

『距離もお誂へだつたしよ。壺のやうな月明りで而も雪の上だもの、君なんか只の一發で打斃すのは譯はないやね。』

『……。』ひいやりとした樣子だつた。

『するとお嬢さんが駆込んで來て、いきなり僕の手に取捉まつてからに、どうしてもお放しにならんのだ。何故邪魔をなさるんですと僕は怒鳴つたよ。實際腹が立つたからね。と、お嬢さんのお言葉が慄うだ、いゝか、よく聞け。もし源太を撃つてその屍體を爺やお花に見せつけたなら、二人はどんな感じがするか。而もそれが盗賊として、殺人罪の未遂犯として殺された屍體である。二人は悧うでなくつてさへ子供や兄の身上を心配しぬいて、泣いてゐる矢先だ。そこへ持つて來てその情ない死狀を見たら到底生きては居られまい。自殺しなければ必ず發狂する。それが可哀相だ氣の毒だ。と斯う被仰るのだ。おい、どうだい、君。現在自分が附纏はれて、一度ばかりか二度までも危く命を奪られかゝつた惡漢だぞ、相手は……普通の人間ならば自分が手を下しても殺したいほどに[illegible]らう。それほどに憎い君をだ、いゝか、親父や妹に同情したばつかりで怨も憎しみもみんな忘れて、寧ろ進んで保護をして、一生懸命に救つておやりになつたんだぞ。何といふ氣高い精神だらう。佛や神を寶物にしてゐる宗教家だつて、なかなか此の眞似ができるものぢやない。僕はその時に泣いた、實際感泣したよ。只一打と思つて握り詰めた銃が、ぽろりと手から落ちたんだ。なア、世のなかに愛ほど大きなものはない、その愛に對して邪慳の劍をかざす惡魔はない筈だ。有るとすれば只君一人だぞ。おい、これでも君はまだ恩にもつかない氣焔を吐いて、お嬢さんに逆らうつもりか。あア、どうだ。源太君。』

沈痛な語氣で叩きつけたやうに言つた。と、源太は何物か或る強大な力に乘かぶされて、背上の方からぢりぢりと壓しつけられるやうに、體は前へ前へとこごんでいつて、見てゐるうちに頭から先に地に著いて了ひ、鳩子の足下に全く偃りこんだまゝ、ぶるぶるツと肩をふるはした。

『濟まねえツ、濟まねえツ。』

嗄うふかと思ふと、男泣きにオーオーと大きな聲を放つた。

鳩子は思はず嫣然として大野の顔を見た。

洞中夜氣森然。火は一明一滅して古廊のやうな岩壁を隱顯させた。

西洋料理、すき燒、ハイカラ丼 おいしい事京城第一との高評ある御ひいき願上候 南大門通 電話二五七一番 カフエータイガー

新刊紹介

▲白樺（十月號）雛總督與謝郎、ライオン小泉鐵郎、短歌近藤木下利玄、或る青年の夢（第三幕）武者小路實篤等（三十五錢東京市麹町區平河町五の三六洛陽堂）

▲科學世界（十月號）工業界と時局の影響大竹工學博士、生物學と人生いそのはな、曲線と物理現象中里一讓、油脂の精製漂白及び脱臭法に就て鈴木高工教授、指紋の短略形に就て石川金太郎等の外各欄如例（二十五錢東京市本郷區湯島四の八共社）

▲東亞之光（十月號）聖徳太子の十七條憲法に就て黒板文學博士、宗教と飲酒片山国嘉博士、宗教的世界觀と哲學的世界觀小尾文學士、ヘッケルの藝術觀黒川文學士、第三回院展概評等見るべし（二十四錢東京市本郷區駒込千駄木町五〇東亞協會）

▲養鷄と園藝（十月號）鳴禽鑑賞文人工孵卵育雛は如何にせば最も好結果を得るか等發表せる外、鷄卵の受精、十月と養鷄其他依例豪編（十二錢大阪市東區味原町一〇二家の友社）

▲學校教育（十月號）排字九九の取扱法山本孫一、月兎の傳說渡邊良法、諸方の教育學的考察寺内宗一郎、文章の主觀的取扱を本宿吉藤依例顛躍なる好讀物（十八錢東京市日本橋區本石町賛文館）

▲滿蒙實業彙報（九月號）三線聯絡運賃問題に關する經過報告及び經過概要は同問題經過の詳細を盡し工業欄の關東州特種産業、交通欄の各種日本間兩線路運賃比較其他各欄總て本誌獨得の滿蒙研究好資料にして猶滿蒙經濟統計四十八頁を附す（二十五錢大連商業會議所）

▲外交超然論（公民同盟叢書第十六編）大隈首相氏の講述に依り大戰後の日本より列強の外交を說き膨脹的日本の將來が決して樂觀すべからざるを論じ外交に於ても赤坂國一致を緊要とすべきを述べたるもの簡明にして要を得たり（十錢東京市麹町區內幸町一の五公民同盟出版部）

▲トモダチ（十一月號）十二錢東京市麹町區富士見町二藥社

▲農家繁榮策（日下部山著）地方の風紀振肅、男女の弊風、結婚及家庭に於ける各種の注意等より教育、青年、[illegible]に至る迄農家に必要なる事項を網羅し平明に解說したり（三十五錢東京市小石川區大塚坂町二四世界公論社）

▲戰後の經濟政策、救はれたる日本（天野爲之）戰後の生活問題（安部磯雄）戰後の外國貿易（津川樂天郎）戰後の海運政策（伊藤東大郎）戰後の社會問題（北澤新次郎）戰後の物價と我邦産業の將來（小林丑三郎）戰後の財政政策の近狀と其將來（[illegible]）戰後の金融政策（[illegible]）戰後産業政策の根本如何（平沼淑郎）保險會社の財産利用を論ず（[illegible]）我工業の發展と原價計算制度普及の必要（吉田良三）の十二篇を收む總て之專門家の執筆に成る戰後緊要經濟問題たらざるはなし價赤版（八十五錢東京市日本橋區本石町三賛文館）

流石の銘

▲京城神社の祭典が來て母國を遠く離れて來て居る者に取つては何より樂しみは氏神樣かなことだ日本國民の精神は氏神に依つて授かつたものが多いのだから（愛國民）

▲漢陽公園の記念碑附近には妙な女が出沒してお山の神聖を汚すこと一通りでない何んとか取締の方法はないものか（朝巡坊）

▲京城の女子實科教育に就ての記事が出て居ましたが實際京城には如何はしい裁縫所や技藝教授所が多くて困る妙齡の子女を託するのに其人物をも檢べずに出して居る親馬鹿は中す迄もなければど是等はよろしく社會から制裁を加へなければならぬと思ふ當局に此邊の設備のないのに付入つて益々殖へる樣な風があるのは雄々しき一大事であると思ふ（ベスタロッチ）

▲南大門通りの道路修繕工事は此先きいつ迄繼續さるものにて候や吾々商人の迷惑一方ならず候間一日も早く完成する樣御取計ひ願上候（牛の誕生）

▲虎刻拉の注射を受けた所が甚だ多かつたのか又は熱でもあつたのか非常に苦んだが或お醫者さんに伺つたら注射液が惡いのだと云つた（不安心生）

▲此頃豆腐が一丁につき一錢値上げせしは如何なる譯か知らぬが物干が上る酒が上る米が上ると貧乏人は閉口だ（勞働者）

▲何日かの本欄で京城にはミルクホールがないとありましたが私も大贊成でございます是非一つ誰か開業して頂きたいものです（或る女）

構內電話復設

本社構內電話交換臺を復設致候間爾今本社へ御用向きの方は一旦『京城日報社』を御呼出し被下（尤も番號御呼出の必要無之候）更に左記の番號に依り御電話被下度候

京城日報社

編輯局	一番	社長
	二番	編輯局長
	三番	政治部・經濟部
	四番	社會部・繪畫部
	五番	編輯部・校正係
	六番	書記
	七番	每日申報・幹部
	八番	每日申報・編輯部
	九番	應接室・（竹の間）
	十番	來市閣
營業局	一一番	經理部長・營業局長
	一二番	經理部
	一三番	廣告部長
	一四番	販賣部
	一五番	廣告係
	一六番	外交係
	一七番	每日申報・廣告係・販賣係
	一八番	京城日報・廣告係
	一九番	販賣係
	二〇番	代理部
	二一番	第一應接室
	二二番	發送部
	二三番	寫眞部・植字部・整版部・守衛

新刊圖書法案內

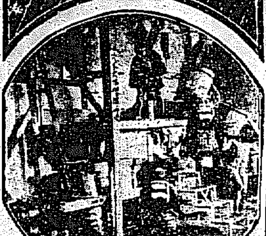
書名	著者	定價
地理教授の方法及び内容の研究	牧口常三郎	一五〇
刑事訴訟法	林賴三郎	三〇
歐洲戰後の財政及び金融	田尻稻次郎	一二
刑法判決實例	巖松堂	一八〇
改訂增補西洋史眼 上下	木村正治	二五〇
株式大鑑	堀江友義	一二〇
最新式辭と演說	橋田正吾	一五〇
祇園書集辭妾	中澤弘光	一四〇
後の巖窟王	高峯百峰	八〇
茶話	薄田泣菫	六〇
お夏淸十郎	岡田八千代	四五
八犬傳物語	大町桂月	九五
大僧正天海	須藤光暉	一二〇
法學通論	中村進午	一〇〇
フオードの社會學	遠藤隆吉	一五〇
朝鮮語學捷徑	佐藤瀛堂	五〇
露國研究	同文館	一七〇
強い身體を造る法	川合春充	一〇〇
朝鮮巡査受驗準備書	田口春次郎	六〇

京城本町二丁目 巖松堂書店 電話一一六〇番 振替京城二四四番

新刊書御案內

書名	著者	定價
大典記念 ゴオンヨー	足利武千代	一二〇
日本民法 詳細判決 獨逸民法	荒波正隆	八〇
西洋上古史	村川堅固	一七〇
ワオード社會學	遠藤隆吉	一五〇
シーカー經濟原論	石濱[illegible]	二五〇
日本氣候學	中川源三郎	二〇〇
新編ポケット物語	檜山正則	六〇
園研究	數物學界	一〇〇
小學教育の新方向	小學教育研究會	六〇
投入盛花挿し方	野田猶州	一二〇
新選西洋品性論	栗原古城	一〇〇
快心錄	楠田鐵堂	一二〇
說き苦勞	篠原嶺葉	六〇
男讀むべからず	丹羽千子	七五
實際に商用通信文	平野三郎	八五
手紙の新しい珠算の秘訣	佐々木政吉	五〇
大正六年度東京遊學案內	帝國教育會	五〇
井上英和中辭典	井上十吉	一二〇
最新保險學 手本	澤山清益	各一

京城本町一丁目 大阪屋號書店 電話一〇八六 振替京城二七



指環及時計 仁川本町 永岐商店 電話三七〇番・振替京城七一

株式會社茂木醬油製造所製
二ほまれ味噌
製造元 日本醬油株式會社京城出張所 電話二五五番

優等清酒 醸造元 福岡縣三井郡山川村 富安本店 發賣元 京城永樂町二丁目 富安京城支店 電話一〇三九番 振替口座四三九番

内科 小兒科 京城日出小學校前 多々見醫院 入院隨意 電話九四〇番

藥種賣藥卸商 仁川本町 北島藥店 電話三三四・振替京城六七番 京城本町永樂町角 北島藥店京城支店 電話七六一番

醫化學器械一式

日韓書房 新版報告 大内青巒著 人生の快樂 定價四十錢 小栗風葉著 青春 定價四十錢 福本日南著 清教徒神風連 定價八十錢 高峯百峰譯 後の巖窟王 定價八十錢 新渡戸稻造著 力の生活 定價八十五錢 京城本町二丁目 電話一四五一 振替口座一五一

消毒白粉 アルボース

昔も 今も 效能 逆上を引下げ便通をよくし 梅毒其他諸毒を下す 效能で賣れる 七ふくひるさわり 大日本大阪 高津 本家七ふくや 伊藤長兵衞

男のひみつ病 專賣特許第二七九二四號、同第二九二〇一號、同第二九二六九號の眞空水治療法器と包皮自然治療器は共に最新發明の軽便自療器にして之を自宅にて秘密に使用せば生殖器の短小、包皮、陰萎、早漏、遺精、夢精、神經衰弱等は頗る手輕に全治し再發の憂なし ハガキで申込ば圖入明細書を無代進呈す 類似特許に非ざる新案に就き御注意 東京市芝區 本所 東京京橋木挽町三ノ廿五 大阪市北區北森町一番地 東京・大阪新療法研究所

瀨戸皮膚科外科醫院 旭町二丁目（舊三丁目） 醫學士 瀨戸潔 診察夜九時まで （電話二四九八番）

醇良清酒 仁川本町四丁目 吉金酒店 電話七六四番

仁川引 マルサ之 ... 品 生 十個四十錢 廿五錢 ... 山田文泉堂藥房 [illegible]

閑靜にして避暑避寒に宜し 溫陽溫泉

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 [illegible] 月 日 後五時出帆
○[illegible] 十時出帆
○元山、城津、淸津行 [illegible] 月 日 後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、淸津行 [illegible] 月 日 後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 [illegible] 後六時出帆
○長崎行 [illegible] 十四日午後十時出帆
大池回漕部

朝鮮郵船 仁川出帆

○京城丸 ○黃海丸 ○成鏡丸 [illegible] 十月十八日 十月廿三日 釜山發
○隱城丸 ○昌平丸 ○龍城丸 十月十七日 十月十九日 十月十四日 元山發
○平安丸 ○咸鏡丸 十月二十日 元山發
○德山丸 十月 日 釜山發
○江陵丸 ○義州丸 毎日 釜山發・浦項發
○三浦丸 十月 日 釜山發
○新興丸 ○慶興丸 [illegible] 毎日 木浦發
○慶興丸 十月十七日 木浦發
○順天丸 十月 日 木浦發
○公州丸 十月十四日 木浦發
○京畿丸 十月十七日 仁川發
○江原丸 十月十八日 仁川發
○麗水丸 ○高陽丸 十月十八日 仁川發
○全州丸 ○南陽丸 毎日午前 仁川發

大阪商船 仁川出帆

○平壤、木浦、釜山、關門、神戸大阪行 十月三十日 元山發
○安東丸 十月十四日 後五時出
○大信丸 [illegible] 十月二十日 [illegible]
○釜山、長崎行 十月 日 後二時出
○福州丸 十月十三日 後二時出
○湖州丸 十月廿一日 後二時出
○大連直行 十一月十五日 後二時出
○信濃川丸 十一月二日 後二時出
○鎭南浦、龍岩浦、安東縣行 十月十六日 正午出帆
○湖州丸 十月廿六日 [illegible]
○大連行（元山出帆） 十月廿六日 後四時出
○安平丸 十月十二日 後二時出
○基隆丸 十月廿七日 前六時出
京城切符發賣所 大阪商船仁川支店

日本郵船 仁川出帆

○大連、大沽、牛莊行 相模丸 十一月九日 正午出帆
○高砂丸 十一月十九日 正午出帆
○三河丸 十一月三十日 正午出帆
仁川海岸町十二番地 堀回漕部

尼崎汽船 仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行 ○君が代丸 十月十七日 後四時出帆
○大有丸 十月十四日 後四時出帆
○神代丸 十月二十一日 後四時出帆
○秀吉丸 [illegible]
仁川海岸通 杉回漕部

阿波共同汽船 仁川出帆

○芝罘、大連行 第一共同丸 十月十五日 後四時
阿波共同汽船株式會社 仁川代理店 野口商會 元山代理店 田口回漕部 京城取次店 河村運送店

商況

下關期米特電

大阪期米（十二日）

大阪株式特電

▲保合小堅し

▲の能く賣る

▲絶好の買場